

## II 令和2年(2020年)鉱工業指数の動向

# 1 概 況

## (1) 生産動向 — 生産指数は低下 —

令和2年の生産指数（原指数）は、前年比▲7.5%の92.9となり、2年連続で低下した（表1、図1、統計表第1表）。

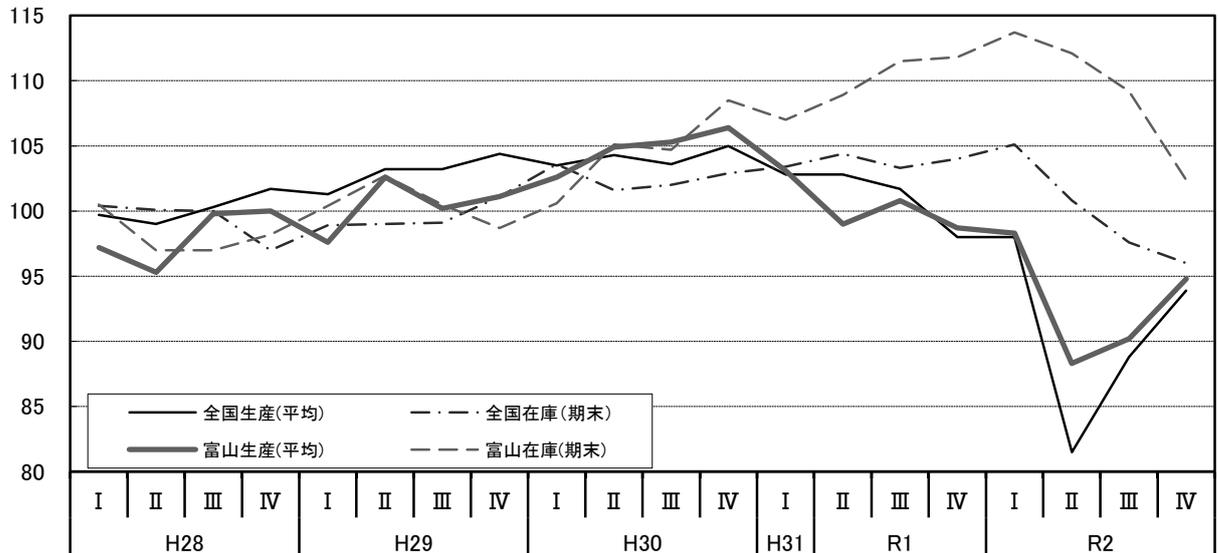
表1 鋳工業生産指数の推移

平成27年=100

	富 山			全 国		
	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)	指 数	前 年 比 (%)	前 期 比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成28年	97.9	▲ 2.1	-	100.0	0.0	-
29年	100.5	2.7	-	103.1	3.1	-
30年	104.9	4.4	-	104.2	1.1	-
令和元年	100.4	▲ 4.3	-	101.1	▲ 3.0	-
2年	92.9	▲ 7.5	-	90.6	▲ 10.4	-
令和2年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	98.3	-	▲ 0.4	98.0	-	0.0
II 期	88.3	-	▲ 10.2	81.5	-	▲ 16.8
III 期	90.2	-	2.2	88.8	-	9.0
IV 期	94.8	-	5.1	93.9	-	5.7

注: 全国指数は「経済産業省 鋳工業指数」から転載

図1 鋳工業指数(四半期季節調整済 平成27年=100)



令和2年の生産の動きを四半期別にみると、前期比(季節調整済指数)は、Ⅰ期▲0.4%、Ⅱ期▲10.2%と令和元年Ⅳ期以降3期連続で低下したが、Ⅲ期2.2%、Ⅳ期5.1%と2期連続で上昇した。

また、前年同期比(原指数)は、Ⅰ期▲4.4%、Ⅱ期▲11.4%、Ⅲ期▲11.3%、Ⅳ期▲3.1%と令和元年Ⅱ期以降7期連続で前年を下回った。

(表1、図1、図2、図3、統計表第3表)。

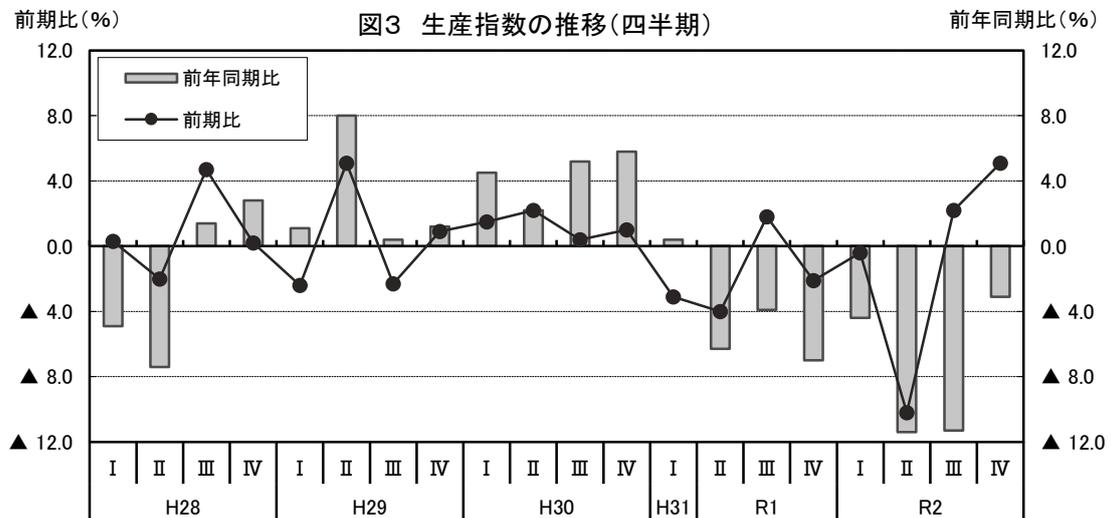
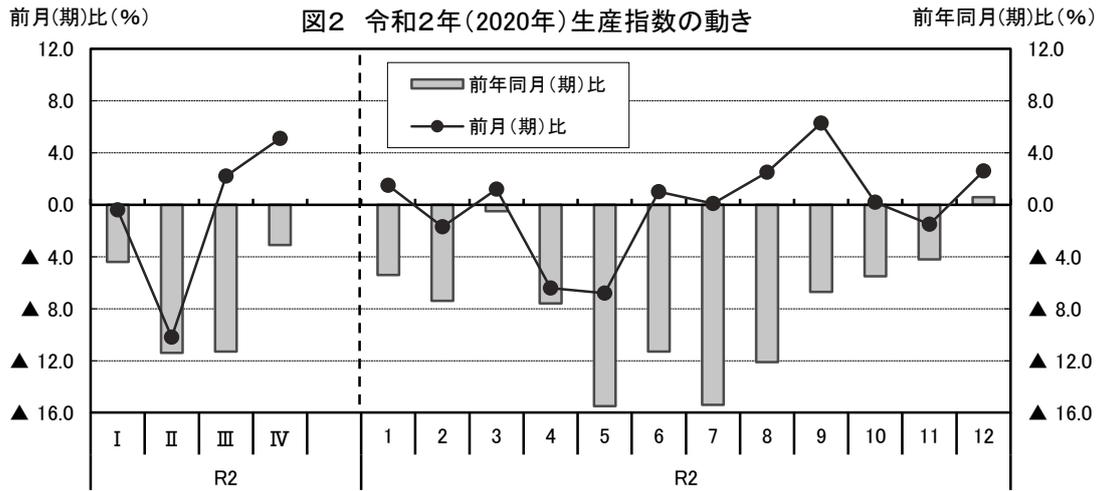


表2 生産指数(年平均)

平成27年=100

	富山県	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考)
	ウェイト	令和元年	令和2年			ウェイト
鉱工業	10000.0	100.4	92.9	▲ 7.5	▲ 7.47	10000.0
製造工業	10000.0	100.4	92.9	▲ 7.5	▲ 7.47	9983.0
鉄鋼業	296.1	102.3	86.9	▲ 15.1	▲ 0.45	423.2
非鉄金属工業	390.4	99.2	87.4	▲ 11.9	▲ 0.46	201.6
金属製品工業	996.7	89.7	79.9	▲ 10.9	▲ 0.97	438.1
汎用・生産用・業務用機械工業	1496.5	109.2	92.2	▲ 15.6	▲ 2.53	1436.6
電気機械工業	1254.0	93.1	102.5	10.1	1.17	1420.1
輸送機械工業	410.9	111.6	83.0	▲ 25.6	▲ 1.17	1796.5
窯業・土石製品工業	252.9	79.9	67.5	▲ 15.5	▲ 0.31	322.0
化学工業	2734.0	108.8	109.2	0.4	0.11	1093.0
医薬品	2110.9	108.3	110.9	2.4	0.55	237.0
プラスチック製品工業	497.4	99.0	90.5	▲ 8.6	▲ 0.42	441.7
パルプ・紙・紙加工品工業	401.9	96.2	78.3	▲ 18.6	▲ 0.72	226.5
繊維工業	193.5	87.8	77.8	▲ 11.4	▲ 0.19	182.2
食料品工業	531.7	89.3	77.5	▲ 13.2	▲ 0.62	1313.8
その他工業	544.0	91.7	74.5	▲ 18.8	▲ 0.93	687.7

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、輸送機械工業、金属製品工業など 11 業種が低下し、電気機械工業、化学工業の 2 業種が上昇した（表 2、表 3、図 4、図 5、図 6、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

生産指数（原指数）全体の低下に最も影響を与えたのは、汎用・生産用・業務用機械工業（寄与度▲2.53）で、金属工作機械などの減少により、前年比▲15.6%の 92.2 となった。次いで、輸送機械工業（寄与度▲1.17）が、前年比▲25.6%で 83.0 となった。

一方、上昇に最も影響を与えたのは電気機械工業（寄与度 1.17）で、前年比 10.1%の上昇で 102.5 となり、次いで、化学工業（寄与度 0.11）が前年比 0.4%の上昇で 109.2 となった。

表3 業種別生産指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 2.53	ロボット産業機械	金属工作機械
	輸送機械工業	▲ 1.17	-	
	金属製品工業	▲ 0.97	-	金属製建具
	その他工業	▲ 0.93	-	
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 0.72	-	
	食料品工業	▲ 0.62	-	その他の食料品
	非鉄金属工業	▲ 0.46	-	非鉄金属鑄物
	鉄鋼業	▲ 0.45	-	素製品(鋼半製品含)
	プラスチック製品工業	▲ 0.42	-	その他プラスチック製品
	窯業・土石製品工業	▲ 0.31	セメント製品	
繊維工業	▲ 0.19	化繊・紡績	衣類	
上昇業種	電気機械工業	1.17		
	化学工業	0.11	医薬品	化学肥料

※空欄は当該品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

前年比(%) 図4 業種別生産指数対前年比(原指数)の推移

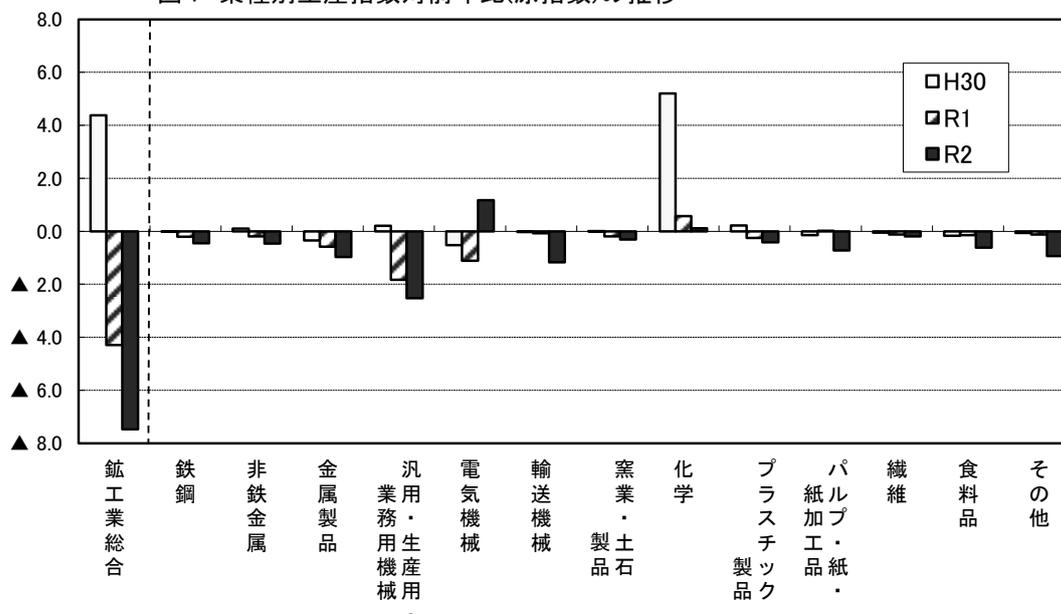


図5 業種別生産指数前年比と寄与度

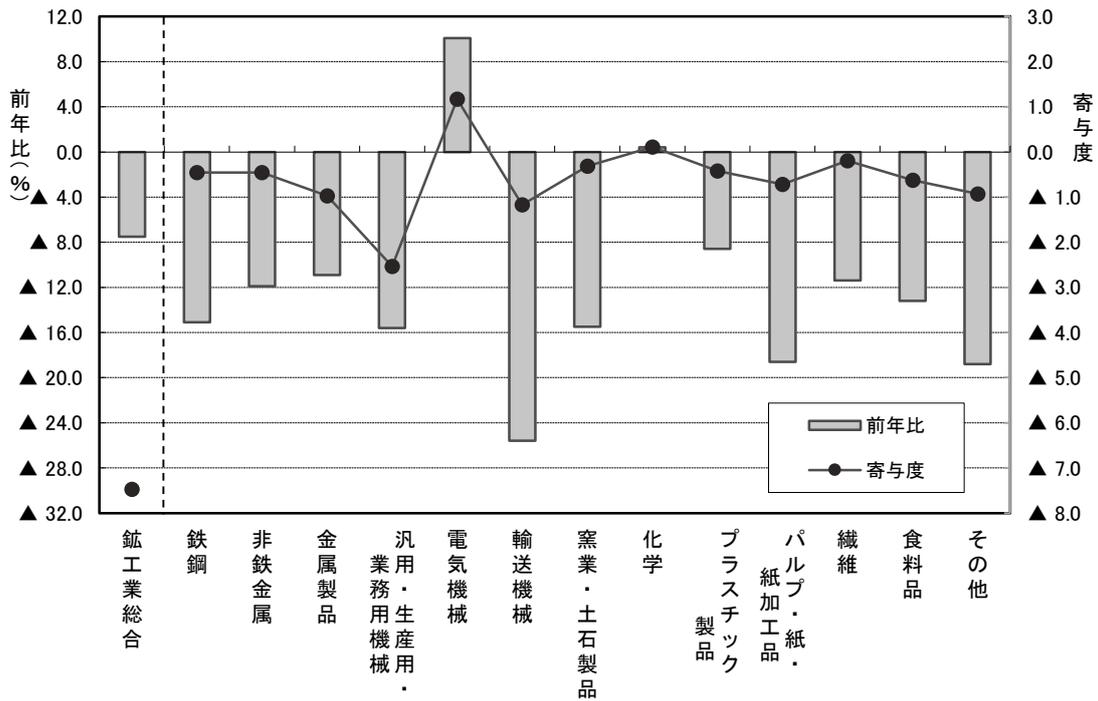
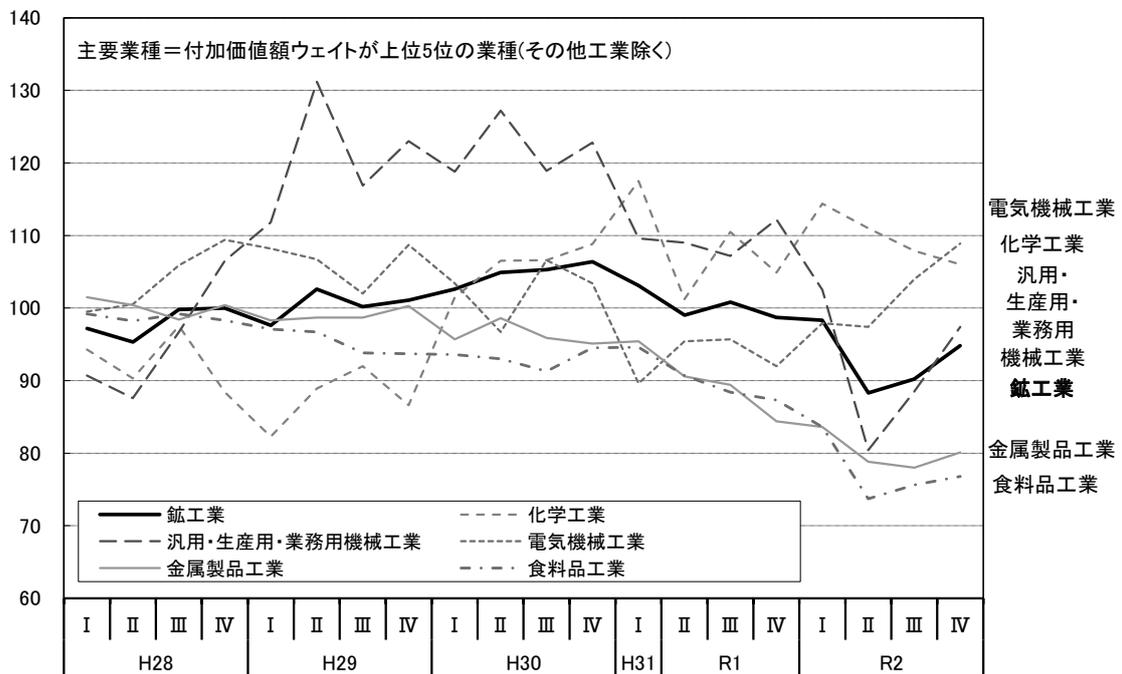


図6 生産指数(四半期季節調整済 平成27年=100)の推移



財用途別生産指数（原指数）の前年比は、最終需要財が▲4.2%となり、生産財が▲10.6%となったことにより、全体で▲7.5%となった。

最終需要財は、投資財（寄与度▲1.45）が前年比▲7.8%、消費財（寄与度▲0.58）が前年比▲1.9%となったことにより、全体では▲4.2%となった。

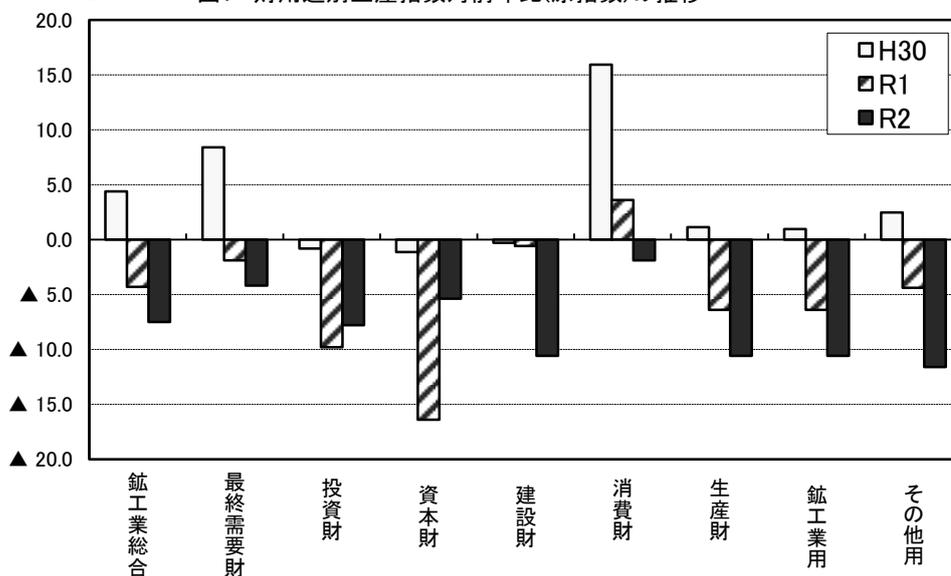
生産財は、鉱工業用生産財（寄与度▲5.26）が前年比▲10.6%となった（表4、図7、統計表第2表）。

表4 生産指数（財用途分類・年平均）

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	年平均指数(原指数)		前年比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	2年		
鉱工業	10000.0	100.4	92.9	▲7.5	▲7.47
最終需要財	4819.7	100.9	96.7	▲4.2	▲2.02
投資財	1885.7	98.1	90.4	▲7.8	▲1.45
資本財	972.2	101.2	95.7	▲5.4	▲0.53
建設財	913.5	94.9	84.8	▲10.6	▲0.92
消費財	2934.0	102.7	100.7	▲1.9	▲0.58
耐久消費財	127.3	X	X	X	X
非耐久消費財	2806.7	X	X	X	X
生産財	5180.3	100.0	89.4	▲10.6	▲5.47
鉱工業用生産財	4985.4	100.2	89.6	▲10.6	▲5.26
その他用生産財	194.9	95.3	84.2	▲11.6	▲0.22

前年比(%) 図7 財用途別生産指数対前年比(原指数)の推移



(2) 在庫動向 — 在庫指数は低下 —

令和2年の在庫指数(原指数)は、前年末比▲9.1%の98.1となり、4年ぶりに低下した(表5)。

令和2年の在庫の動きを四半期別にみると、前期末比(季節調整済指数)は、I期は1.7%と上昇したが、II期▲1.4%、III期▲2.6%、IV期▲6.2%と3期連続で低下した。

また、前年同期末比(原指数)では、I期6.5%、II期4.0%と平成29年II期以降13期連続で前年を上回ったが、III期▲1.4%、IV期▲9.1%と2期連続で前年を下回った(表5、図8、図9、統計表第4表)。

表5 鉱工業生産者製品在庫指数の推移 平成27年=100

	富 山			全 国		
	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)	指 数 年(期)末	前年末比 (%)	前期末比 (%)
暦年推移(原指数)						
平成28年	94.8	▲ 3.2	-	94.9	▲ 3.2	-
29年	95.1	0.3	-	98.8	4.1	-
30年	104.5	9.9	-	100.5	1.7	-
令和元年	107.9	3.3	-	101.7	1.2	-
2年	98.1	▲ 9.1	-	93.2	▲ 8.4	-
令和2年四半期別推移(季節調整済指数)						
I 期	113.7	-	1.7	105.1	-	1.1
II 期	112.1	-	▲ 1.4	100.8	-	▲ 4.1
III 期	109.2	-	▲ 2.6	97.6	-	▲ 3.2
IV 期	102.4	-	▲ 6.2	96.0	-	▲ 1.6

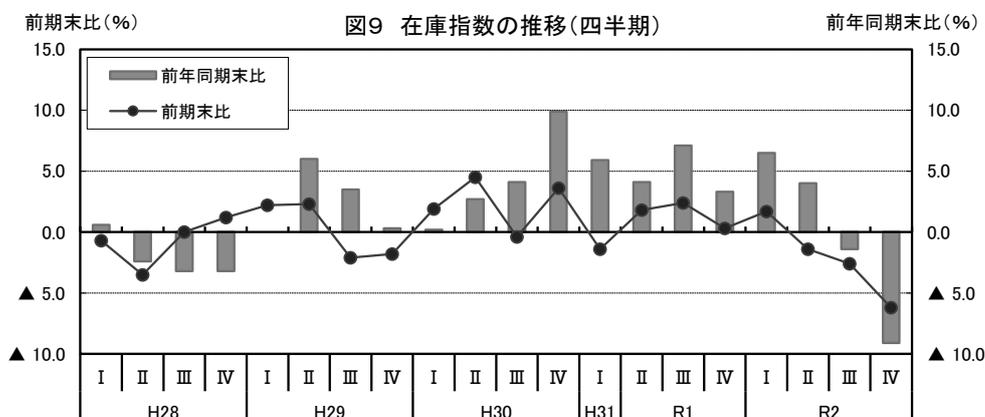
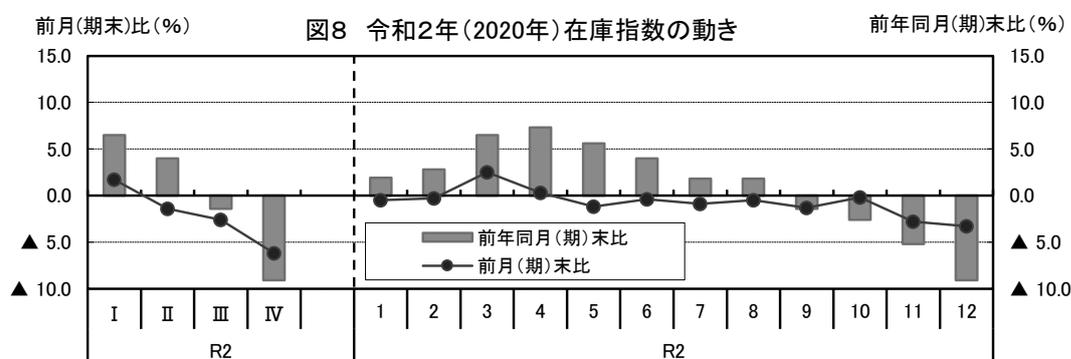


表6 在庫指数(年末)

平成27年=100

	富山県	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)	全国(参考)
	ウェイト	令和元年	令和2年			ウェイト
鉱工業	10000.0	107.9	98.1	▲ 9.1	▲ 9.08	10000.0
製造工業	10000.0	107.9	98.1	▲ 9.1	▲ 9.08	9980.9
鉄鋼業	413.9	98.0	91.8	▲ 6.3	▲ 0.24	1464.6
非鉄金属工業	375.4	103.7	103.8	0.1	0.00	271.9
金属製品工業	482.2	108.1	95.7	▲ 11.5	▲ 0.55	470.9
汎用・生産用・業務用機械工業	1966.6	131.1	114.4	▲ 12.7	▲ 3.04	1027.3
電気機械工業	578.6	X	X	X	X	1122.1
輸送機械工業	225.6	86.4	81.2	▲ 6.0	▲ 0.11	757.4
窯業・土石製品工業	379.7	69.7	69.7	0.0	0.00	361.6
化学工業	3225.2	95.3	86.6	▲ 9.1	▲ 2.60	1664.0
医薬品	1318.0	89.0	99.3	11.6	1.26	-
プラスチック製品工業	621.8	138.0	127.7	▲ 7.5	▲ 0.59	435.4
パルプ・紙・紙加工品工業	597.5	83.2	59.3	▲ 28.7	▲ 1.32	321.7
繊維工業	258.1	109.0	98.5	▲ 9.6	▲ 0.25	256.4
食料品工業	603.8	82.7	82.0	▲ 0.8	▲ 0.04	860.4
その他工業	271.6	X	X	X	X	967.2

$$\text{※寄与度} = \frac{(\text{当年業種指数} - \text{前年業種指数}) \times \text{業種ウェイト}}{\text{前年鉱工業指数} \times \text{鉱工業ウェイト}} \times 100$$

業種別にみると、製造工業 13 業種中、汎用・生産用・業務用機械工業、化学工業、パルプ・紙・紙加工品工業など 10 業種が低下し、電気機械工業、非鉄金属工業の 2 業種が上昇した。また、窯業・土石製品工業が横ばいとなった（表 6、表 7、図 10、詳細は「2 業種別動向」を参照）。

在庫指数（原指数）全体の低下に最も影響を与えたのは汎用・生産用・業務用機械工業（寄与度▲3.04）で前年末比▲12.7%で 114.4 となった。次いで、化学工業（寄与度▲2.60）はその他化学製品などの減少により、前年末比▲9.1%で 86.6 となった。

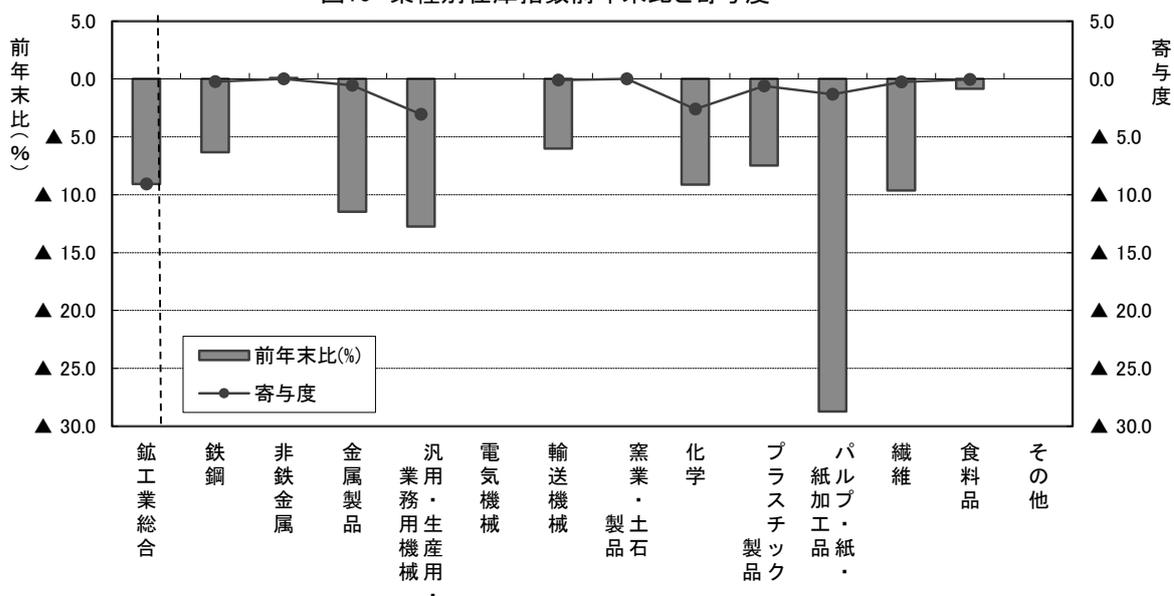
一方、上昇に最も影響を与えたのは、電気機械工業であり、次いで、非鉄金属工業（寄与度 0.00）が前年末比 0.1%の上昇で 103.8 となった。

表7 業種別在庫指数上昇・低下一覧(寄与度の高い順)

	業 種	寄与度(%ポイント)	主な増加品目	主な減少品目
低下業種	汎用・生産用・業務用機械工業	▲ 3.04		
	化学工業	▲ 2.60	医薬品	その他化学製品
	パルプ・紙・紙加工品工業	▲ 1.32	-	
	プラスチック製品工業	▲ 0.59	日用品雑貨	その他プラスチック製品
	金属製品工業	▲ 0.55		金属製建具
	その他工業	X	-	
	繊維工業	▲ 0.25	織物	衣類
	鉄鋼業	▲ 0.24	-	素製品(鋼半製品含)
	輸送機械工業	▲ 0.11	-	自動車部品
	食料品工業	▲ 0.04	飲料	その他の食料品
上昇業種	電気機械工業	X		
	非鉄金属工業	0.00		
横ばい	窯業・土石製品工業	0.00	セメント製品	

※空欄は該当品目が秘匿値のため公表しません。「-」は該当品目がない項目です。

図10 業種別在庫指数前年末比と寄与度



※電気機械工業、その他工業の在庫指数は秘匿値のため公表しません。

財用途別在庫指数（原指数）の前年末比は、最終需要財が0.2%上昇したが、生産財が▲13.0%と低下し、全体で▲9.1%となった。

最終需要財では、投資財（寄与度0.04）が前年末比0.5%上昇し、消費財（寄与度0.06）が前年末比0.2%上昇し、全体で0.2%の上昇となった。

生産財では、鉱工業用生産財（寄与度▲9.27）が前年末比▲13.7%となり、全体で▲13.0%となった（表8）。

表8 在庫指数(財用途分類・年末) 平成27年=100

	ウェイト (万分比)	年末指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	2年		
鉱工業	10000.0	107.9	98.1	▲ 9.1	▲ 9.08
最終需要財	3283.8	95.0	95.2	0.2	0.06
投資財	773.5	118.3	118.9	0.5	0.04
資本財	187.7	95.9	114.7	19.6	0.33
建設財	585.8	125.4	120.2	▲ 4.1	▲ 0.28
消費財	2510.3	87.8	88.0	0.2	0.05
耐久消費財	125.8	X	X	X	X
非耐久消費財	2384.5	X	X	X	X
生産財	6716.2	114.2	99.4	▲ 13.0	▲ 9.21
鉱工業用生産財	6369.9	114.8	99.1	▲ 13.7	▲ 9.27
その他用生産財	346.3	103.4	106.0	2.5	0.08

### (3) 在庫循環

**富山県の在庫循環図**をみると、平成 29 年Ⅰ期、Ⅱ期は「在庫積み増し局面」に位置し、平成 29 年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ、平成 29 年Ⅳ期、平成 30 年Ⅰ期は「在庫積み増し局面」へ移動した。平成 30 年Ⅱ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置し、平成 30 年Ⅲ期は「在庫積み増し局面」へ、平成 30 年Ⅳ期、平成 31 年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」へ移動した。令和元年Ⅱ期は「在庫調整局面」へ、令和元年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ、令和元年Ⅳ期は再び「在庫調整局面」へ移動した。令和 2 年Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和 2 年Ⅱ期、Ⅲ期は「在庫調整局面」に位置したが、令和 2 年Ⅳ期は「在庫減少局面」へ移動した。

また、**全国の在庫循環図**をみると、平成 29 年Ⅰ期～Ⅲ期は「在庫積み増し局面」に位置し、平成 29 年Ⅳ期～平成 30 年Ⅲ期は「在庫積み上がり局面」へ、平成 30 年Ⅳ期は「在庫積み増し局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近へ移動した。平成 31 年Ⅰ期は「在庫調整局面」へ、令和元年Ⅱ期は「在庫積み上がり局面」へ移動し、令和元年Ⅲ期は「在庫調整局面」と「在庫積み上がり局面」の境目付近に位置した。令和元年Ⅳ期から令和 2 年Ⅲ期は「在庫調整局面」に位置したが、令和 2 年Ⅳ期は「在庫減少局面」へ移動した。

#### 〔在庫循環図について〕

企業は、販売用製品、生産に必要な原材料を在庫として保有しており、その量を出荷・販売などの動きに応じて変化させる。この在庫は、経済活動全体としてみると生産と需要のギャップから発生し、景気変動に合わせて循環的に増減する傾向があり、この循環を在庫循環（Inventory Cycle）と呼んでいる。

この在庫循環は、在庫循環図（生産・在庫指数の原指数の前年同期比による在庫循環の 4 局面）として示すことができ、「在庫積み増し局面」→「在庫積み上がり局面」→「在庫調整局面」→「在庫減少局面」と景気の局面ごとに起こり、通常、時計の反対方向にグラフが推移する傾向がある（傾向変動を除去した場合）。

なお、過去の分析から、ほぼ 40 ヶ月（3～4 年）の循環を示すことが多く、「キッチンの波」（キッチン(Kitchin)が分析したもの）とも呼ばれる。

**在庫循環の 4 局面とは、以下のとおり。**

##### 「在庫積み増し局面」

景気が上向き、需要が回復しているときには、将来の需要増を見込み、原料を手当し、製品化を急ぎ、在庫を積み増す（図 b1,b2）。

##### 「在庫積み上がり局面」

景気の山を迎え、需要が伸び悩み、下降局面にはいると、企業の需要予測より実際の需要が下回ることになり、在庫がたまりはじめる（意図せざる在庫投資、図 c1,c2）。

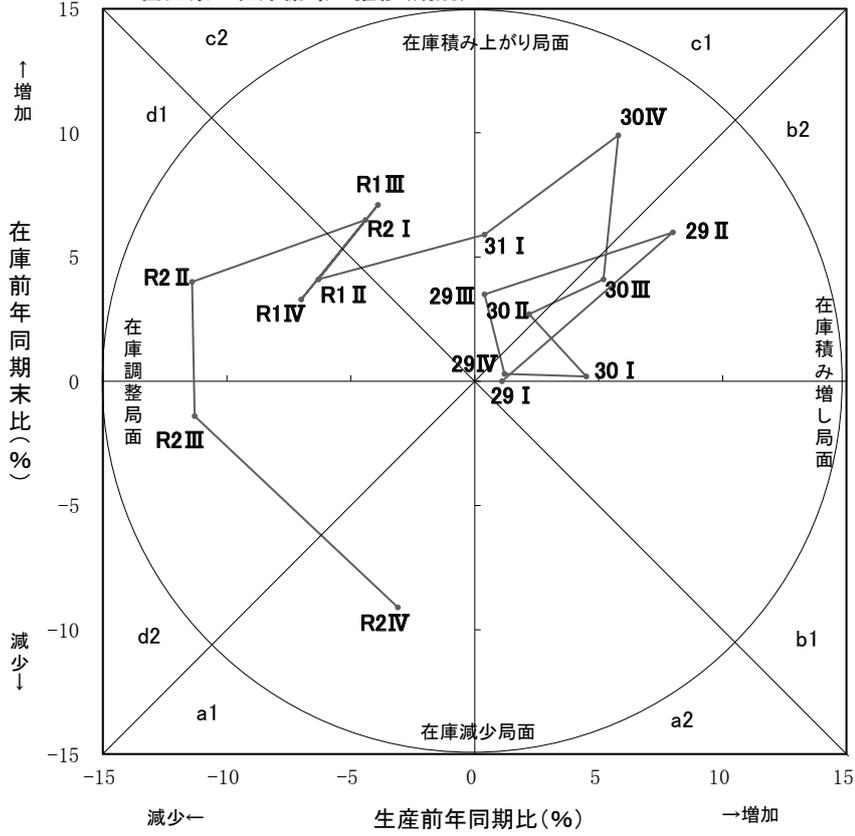
##### 「在庫調整局面」

需要低迷により積み上がった在庫を意図的に減らすため、減産を行う。この結果、景気の停滞・後退は進む。これが在庫調整であり、この在庫調整が終了する時期が、ほぼ景気の谷となる（図 d1,d2）。

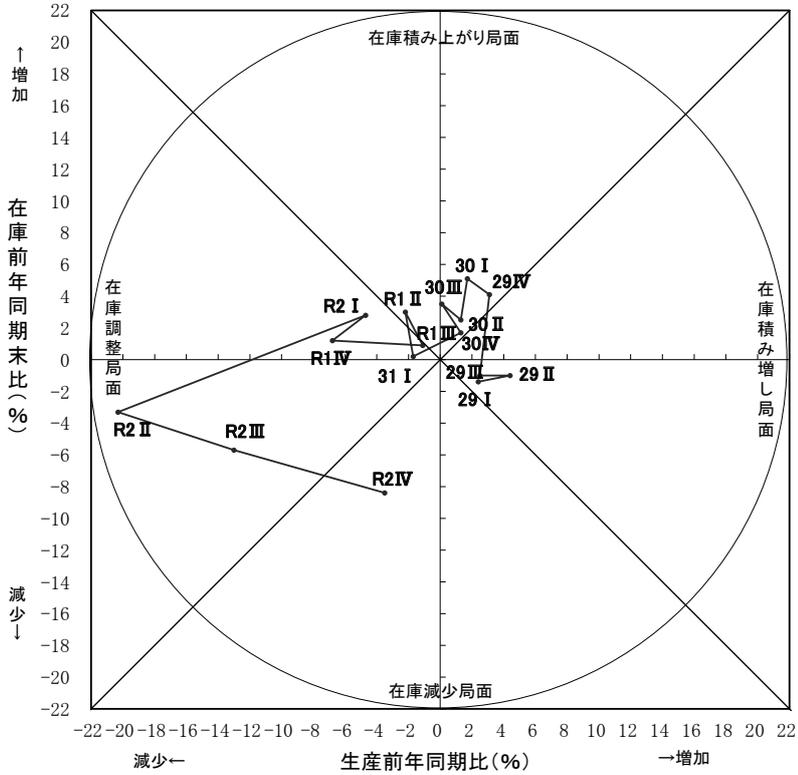
##### 「在庫減少局面」

景気が回復し需要が増えると、最初は生産が追いつかず需要が予測を上回り、生産を増やしても在庫が意図しないで減少する（意図せざる在庫減局面、図 a1,a2）。

富山県の在庫循環の推移(期別)



全国の在庫循環の推移(期別)



**MEMO**

## 2 業種別動向

### (1) 鉄鋼業

#### ①概況

生産指数は前年比▲15.1%（寄与度▲0.45）で86.9となり、3年連続で低下した。これは3品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類）が減少したことによる（表1、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲6.3%（寄与度▲0.24）で91.8となり、2年連続で低下した。これは3品目すべて（素製品（鋼半製品含）、熱間圧延鋼材、鋳鍛鋼品類）が減少したことによる（表1、統計表第9表）。

表1 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
		平成27年=100					平成27年=100			
<b>鉄鋼業</b>	<b>296.1</b>	102.3	86.9	▲15.1	▲0.45	<b>413.9</b>	98.0	91.8	▲6.3	▲0.24
素製品(鋼半製品含)	123.0	97.1	80.5	▲17.1	▲0.20	248.7	97.6	92.6	▲5.1	▲0.12
熱間圧延鋼材	34.0	106.8	73.2	▲31.5	▲0.11	40.5	90.9	77.8	▲14.4	▲0.05
鋳鍛鋼品類	139.1	105.8	96.0	▲9.3	▲0.14	124.7	101.1	94.7	▲6.3	▲0.07

寄与度は鉱工業に対する数値

図1 鉄鋼業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

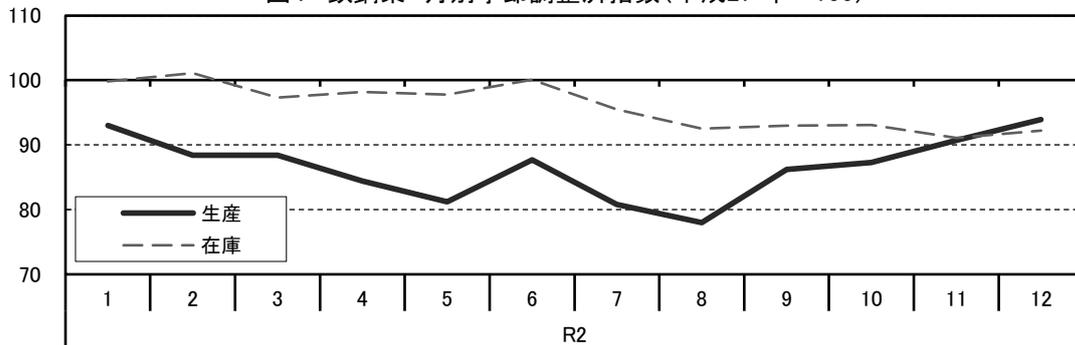
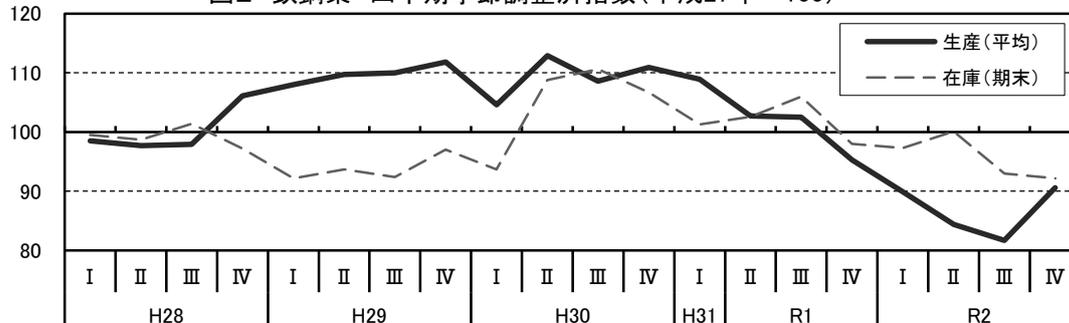


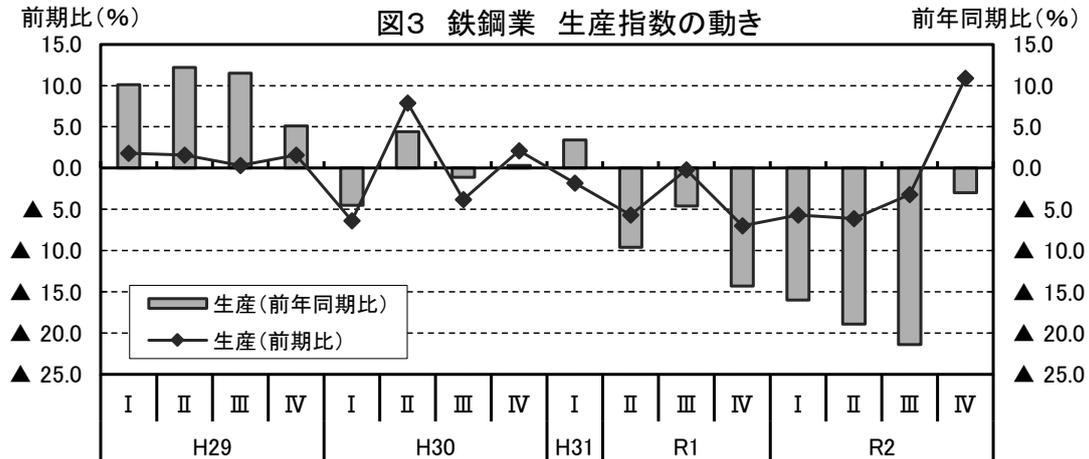
図2 鉄鋼業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲5.7%、Ⅱ期▲6.1%、Ⅲ期▲3.2%と3期連続で低下したが、Ⅳ期10.9%と上昇した。

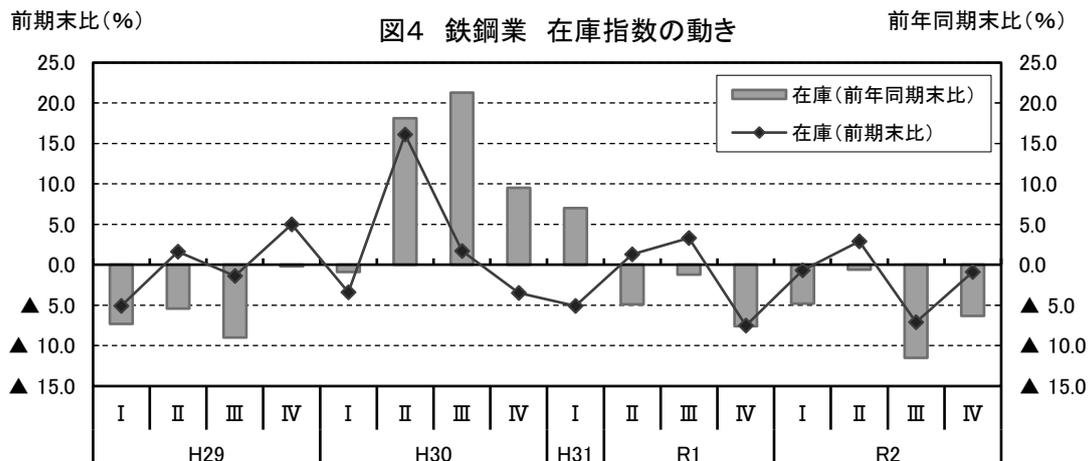
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲16.0%、Ⅱ期▲18.9%、Ⅲ期▲21.4%、Ⅳ期▲3.0%と令和元年Ⅱ期以降7期連続で前年を下回った（図3、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.7%と低下し、Ⅱ期2.9%と上昇したが、Ⅲ期▲7.1%、Ⅳ期▲0.9%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲4.8%、Ⅱ期▲0.6%、Ⅲ期▲11.5%、Ⅳ期▲6.3%と令和元年Ⅱ期以降7期連続で前年を下回った（図4、統計表第4表）。



## (2) 非鉄金属工業

### ①概況

生産指数は前年比▲11.9%（寄与度▲0.46）で87.4となり、2年連続で低下した。これは7品目中、2品目が増加したものの、5品目（アルミニウム二次精錬、アルミニウム圧延製品など）が減少したことによる（表2、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比0.1%（寄与度0.00）の上昇で103.8となり、2年連続で上昇した。これは6品目中、2品目（アルミニウム圧延製品など）が減少したものの、4品目が増加したことによる（表2、統計表第9表）。

表2 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>非鉄金属工業</b>	<b>390.4</b>	99.2	87.4	▲11.9	▲0.46	<b>375.4</b>	103.7	103.8	0.1	0.00
アルミニウム二次精錬	32.4	91.8	81.6	▲11.1	▲0.03	61.5	X	X	X	X
非鉄金属地金	10.1	X	X	X	X	13.6	X	X	X	X
伸銅製品	77.0	X	X	X	X	176.9	X	X	X	X
アルミニウム圧延製品	69.0	104.1	91.7	▲11.9	▲0.09	40.5	157.0	143.1	▲8.9	▲0.05
電線ケーブル	17.1	X	X	X	X	12.2	X	X	X	X
非鉄金属鋳物	134.3	91.5	79.1	▲13.6	▲0.17	-	-	-	-	-
その他非鉄金属製品	50.5	135.9	122.2	▲10.1	▲0.07	70.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図5 非鉄金属工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

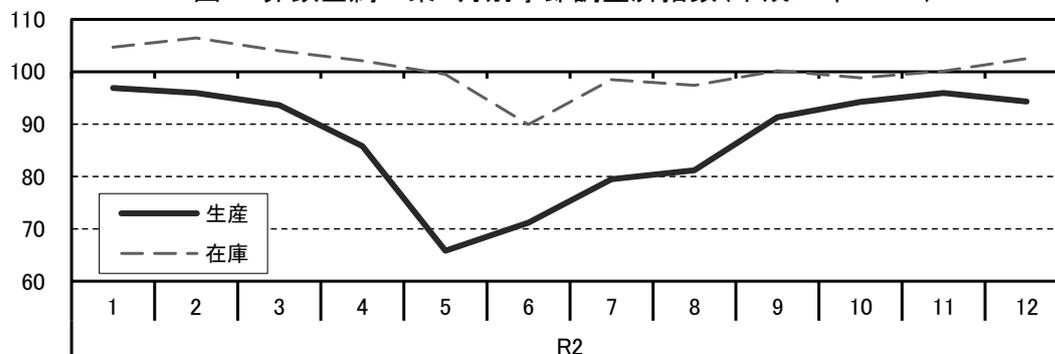
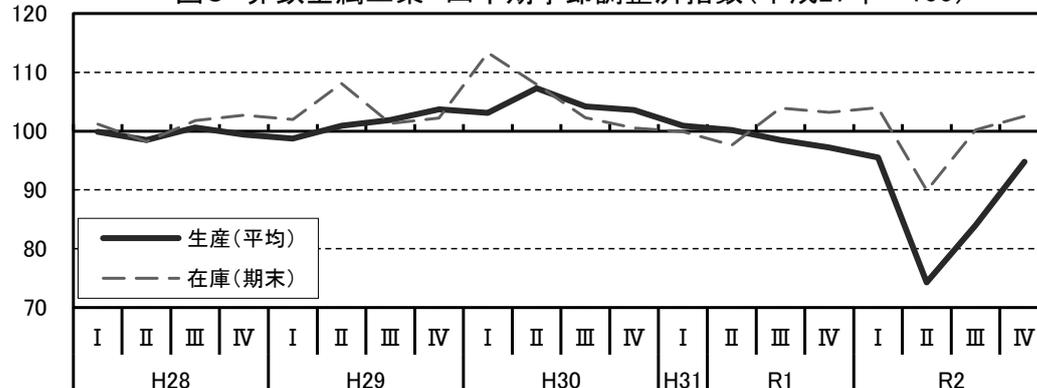


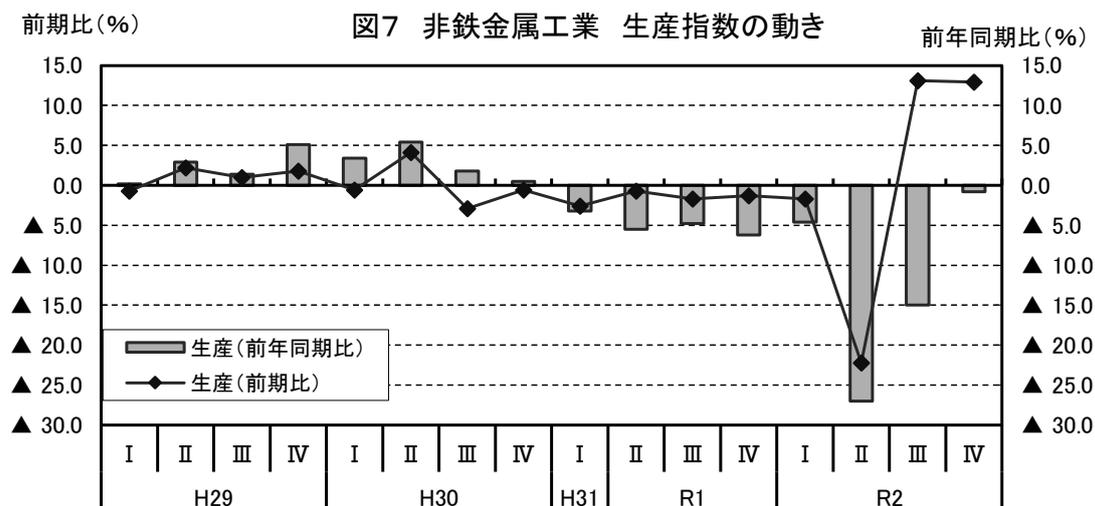
図6 非鉄金属工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲1.7%、Ⅱ期▲22.2%と平成30年Ⅲ期以降8期連続で低下したが、Ⅲ期13.1%、Ⅳ期12.9%と2期連続で上昇した。

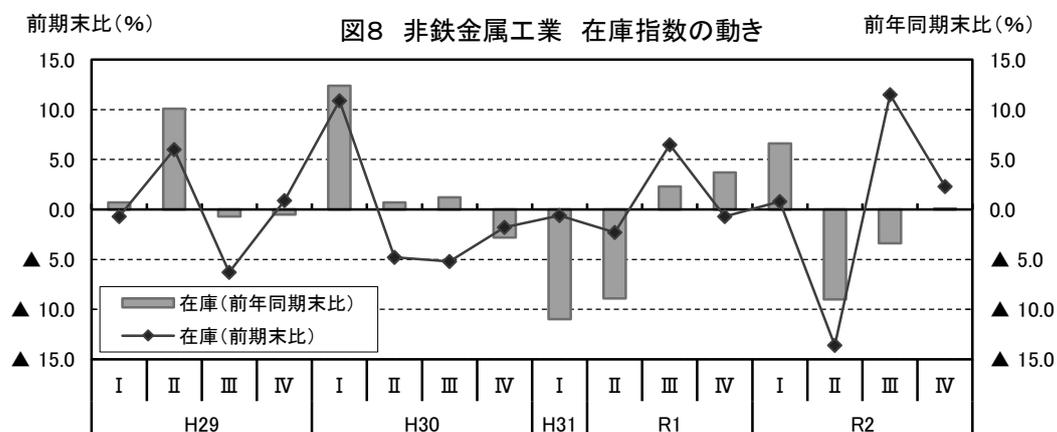
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲4.6%、Ⅱ期▲27.0%、Ⅲ期▲15.0%、Ⅳ期▲0.8%と平成31年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った（図7、統計表第3表）。



## ③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期0.8%と上昇し、Ⅱ期▲13.6%と低下したが、Ⅲ期11.5%、Ⅳ期2.3%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期6.6%と令和元年Ⅲ期以降3期連続で前年を上回ったが、Ⅱ期▲9.0%、Ⅲ期▲3.4%と前年を下回り、Ⅳ期0.1%と再び前年を上回った（図8、統計表第4表）。



### (3) 金属製品工業

#### ①概況

生産指数は前年比▲10.9%（寄与度▲0.97）で79.9となり、6年連続で低下した。これは6品目（鉄構物など）すべてが減少したことによる（表3、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲11.5%（寄与度▲0.55）で95.7となり、2年ぶりに低下した。これは4品目中、3品目が増加したものの、1品目（金属製建具）が減少したことによる（表3、統計表第9表）。

表3 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>金属製品工業</b>	<b>996.7</b>	89.7	79.9	▲10.9	▲0.97	<b>482.2</b>	108.1	95.7	▲11.5	▲0.55
鉄構物	43.7	93.0	73.8	▲20.6	▲0.08	-	-	-	-	-
金属製建具	606.2	93.4	82.7	▲11.5	▲0.65	360.2	111.7	92.5	▲17.2	▲0.64
軽金属板製品	177.7	X	X	X	X	53.8	X	X	X	X
管継手	2.3	X	X	X	X	-	-	-	-	-
ばね	11.0	X	X	X	X	9.9	X	X	X	X
その他金属製品	155.8	X	X	X	X	58.3	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図9 金属製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

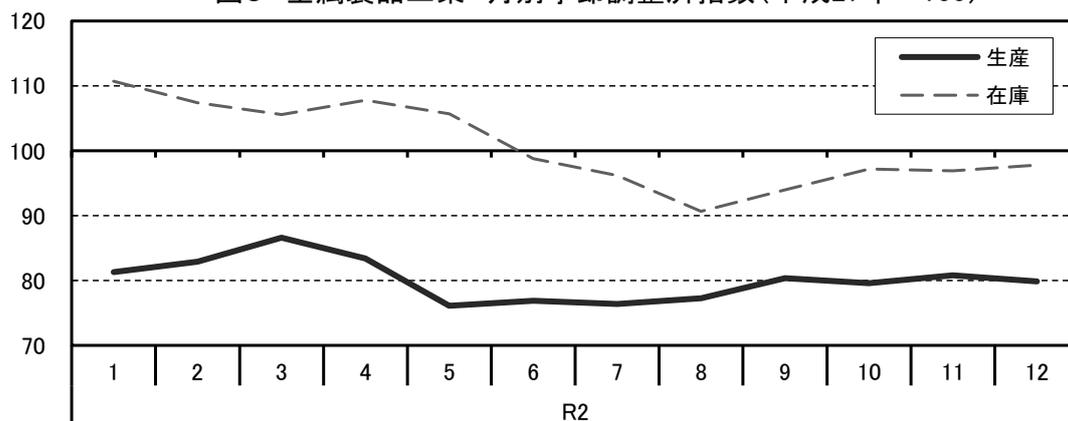
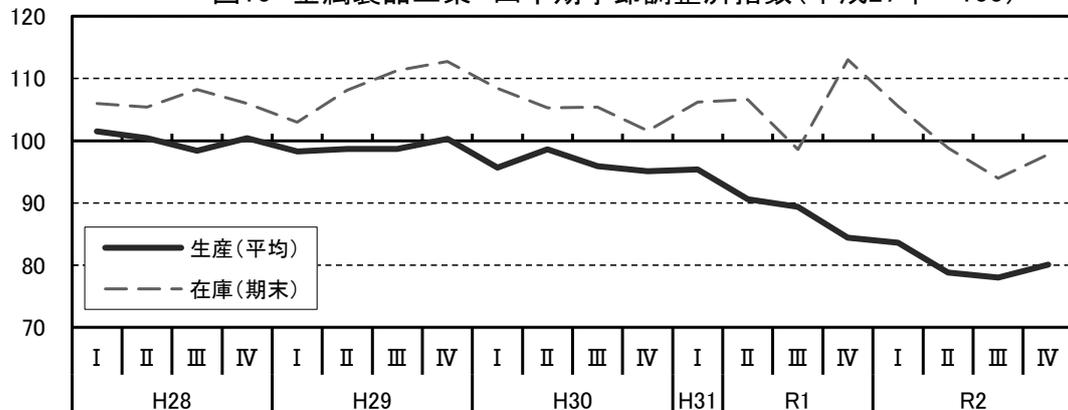


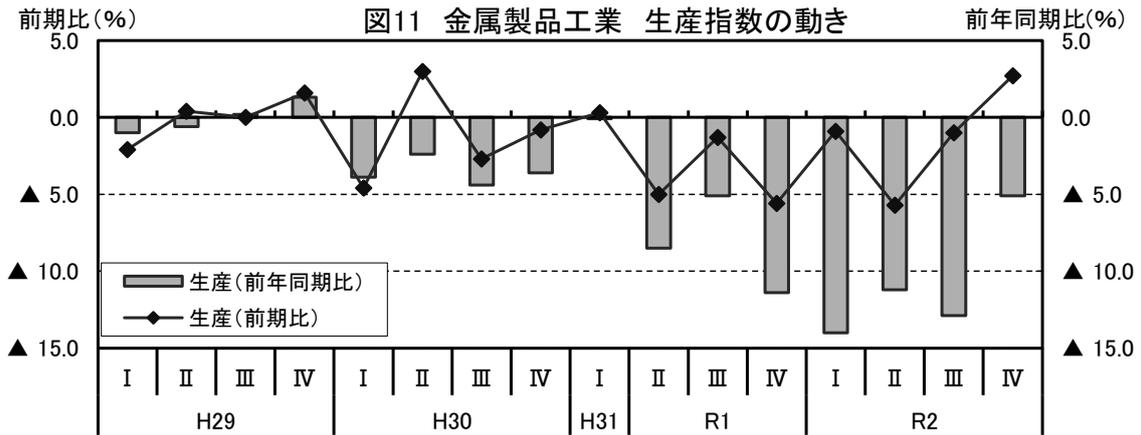
図10 金属製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.9%、Ⅱ期▲5.7%、Ⅲ期▲1.0%と令和元年Ⅱ期以降6期連続で低下したが、Ⅳ期2.7%と上昇した。

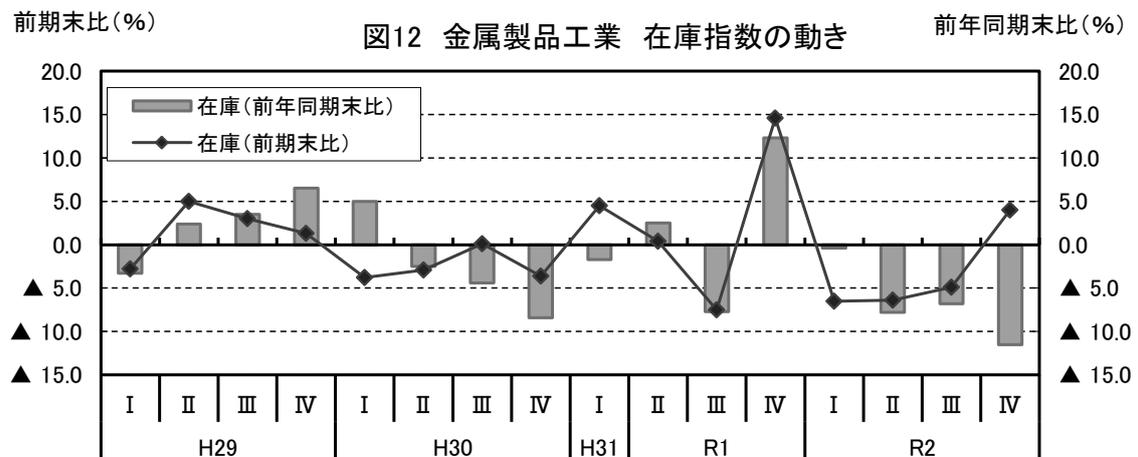
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲14.0%、Ⅱ期▲11.2%、Ⅲ期▲12.9%、Ⅳ期▲5.1%と平成30年Ⅰ期以降12期連続で前年を下回った（図11、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲6.5%、Ⅱ期▲6.4%、Ⅲ期▲4.9%と3期連続で低下したが、Ⅳ期4.0%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲0.4%、Ⅱ期▲7.8%、Ⅲ期▲6.8%、Ⅳ期▲11.5%と4期連続で前年を下回った（図12、統計表第4表）。



(4) 汎用・生産用・業務用機械工業

①概況

生産指数は前年比▲15.6%（寄与度▲2.53）で92.2となり、2年連続で低下した。これは8品目中、2品目（ロボット・産業機械、その他一般機械・部品）が増加したものの、6品目（金属工作機械、金型など）が減少したことによる（表4、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲12.7%（寄与度▲3.04）で114.4となり、4年ぶりに低下した。これは5品目中、1品目が増加したものの、4品目が減少したことによる（表4、統計表第9表）。

表4 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
		平成27年=100					平成27年=100			
<b>汎用・生産用・業務用機械工業</b>	<b>1496.5</b>	109.2	92.2	▲15.6	▲2.53	<b>1966.6</b>	131.1	114.4	▲12.7	▲3.04
油圧機器	114.5	X	X	X	X	-	-	-	-	-
軸受	274.2	X	X	X	X	466.7	X	X	X	X
ロボット・産業機械	381.9	122.4	134.2	9.6	0.45	-	-	-	-	-
金属工作機械	334.3	91.7	62.4	▲32.0	▲0.98	56.4	X	X	X	X
金型	69.6	94.4	65.5	▲30.6	▲0.20	-	-	-	-	-
機械工具	205.7	X	X	X	X	1316.1	X	X	X	X
その他一般機械・部品	41.4	59.5	71.5	20.2	0.05	94.7	X	X	X	X
業務用機械	74.9	X	X	X	X	32.7	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図13 汎用・生産用・業務用機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

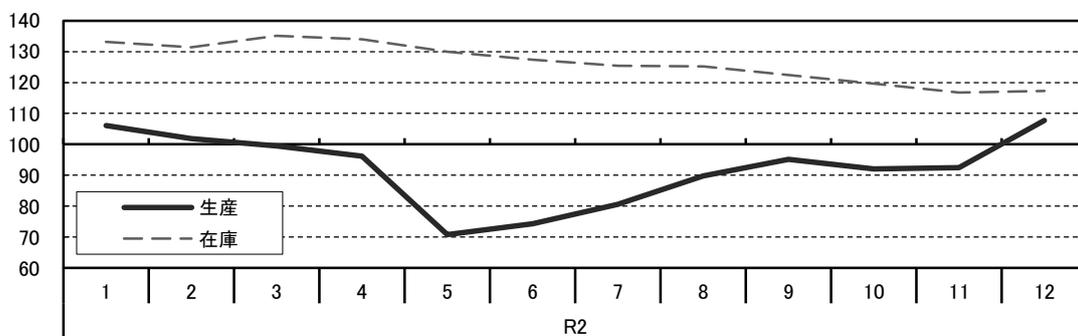
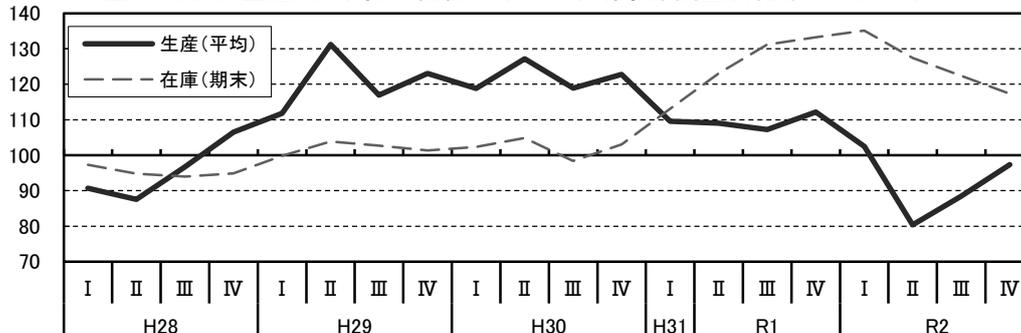


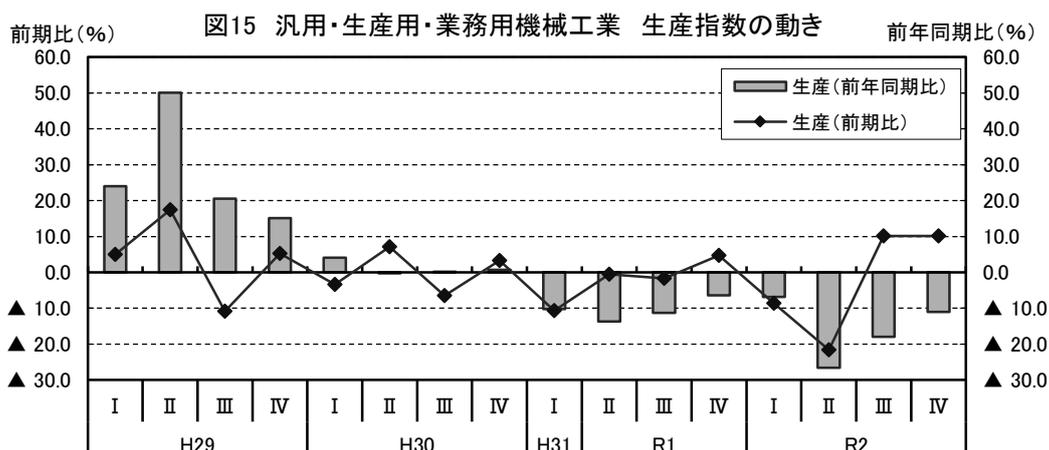
図14 汎用・生産用・業務用機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲8.6%、Ⅱ期▲21.6%と2期連続で低下したが、Ⅲ期10.1%、Ⅳ期10.1%と2期連続で上昇した。

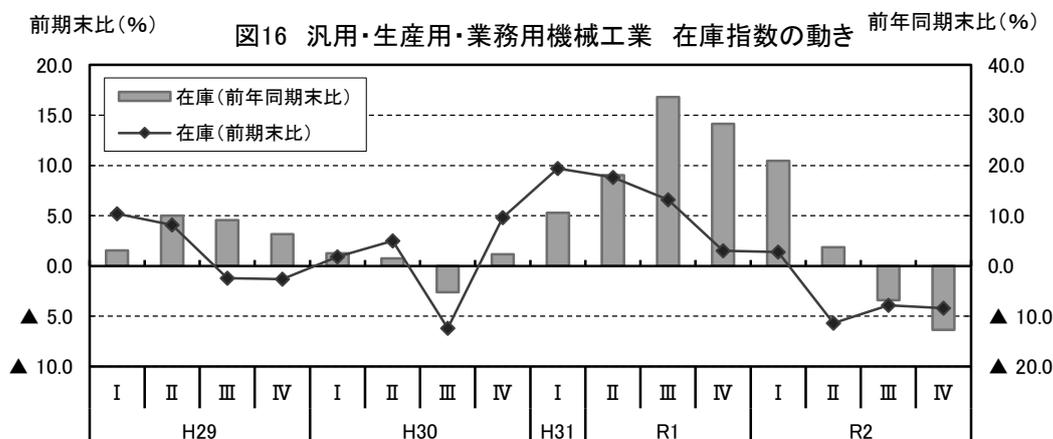
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲6.9%、Ⅱ期▲26.6%、Ⅲ期▲18.0%、Ⅳ期▲11.0%と8期連続で前年を下回った（図15、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期1.4%と平成30年Ⅳ期以降6期連続で上昇したが、Ⅱ期▲5.7%、Ⅲ期▲3.9%、Ⅳ期▲4.2%と3期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期20.9%、Ⅱ期3.7%と平成30年Ⅳ期以降7期連続で前年を上回ったが、Ⅲ期▲6.8%、Ⅳ期▲12.7%と2期連続で前年を下回った（図16、統計表第4表）。



## (5) 電気機械工業

### ①概況

生産指数は前年比 10.1% (寄与度 1.17) の上昇で 102.5 となり、3 年ぶりに上昇した。これは 5 品目中、2 品目 (その他電気機械など) が減少したものの、3 品目 (電子部品など) が増加したことによる (表 5、統計表第 7 表)。

在庫指数は 2 年ぶりに上昇した。

表5 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>電気機械工業</b>	<b>1254.0</b>	93.1	102.5	10.1	1.17	<b>578.6</b>	X	X	X	X
静止電気機械器具	89.7	X	X	X	X	75.8	X	X	X	X
その他電気機械	49.3	90.5	87.3	▲ 3.5	▲ 0.02	-	-	-	-	-
半導体	91.3	X	X	X	X	-	-	-	-	-
集積回路	610.0	X	X	X	X	-	-	-	-	-
電子部品	413.7	121.0	134.9	11.5	0.57	502.8	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図17 電気機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

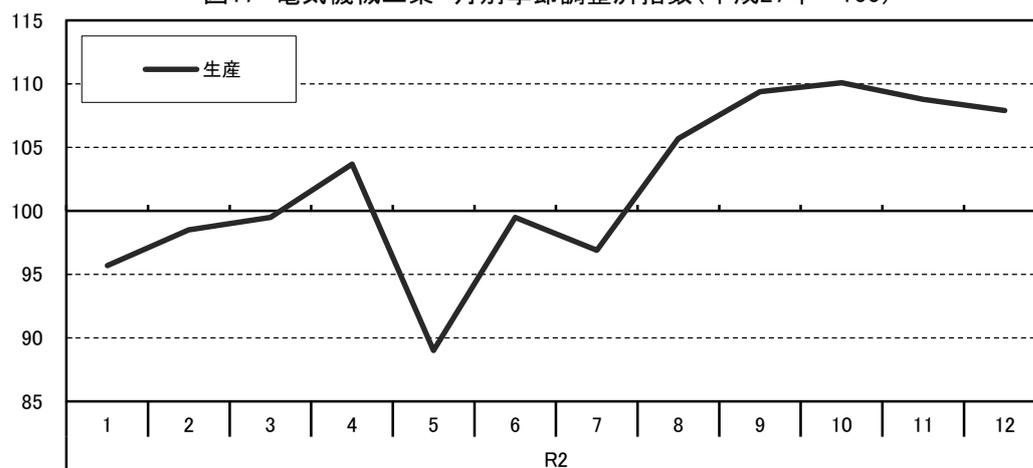
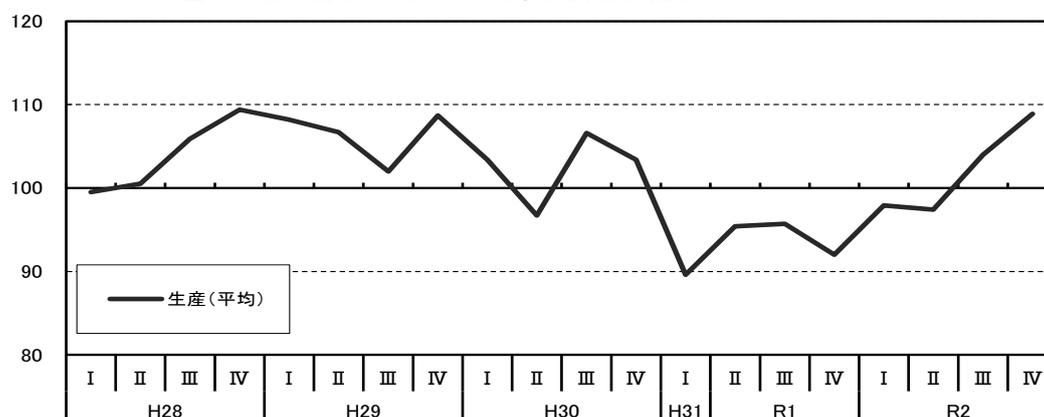


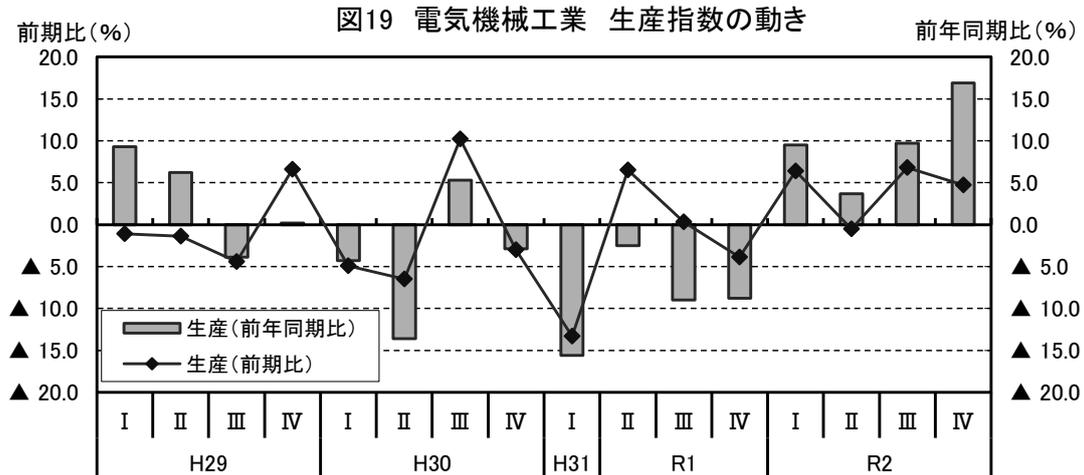
図18 電気機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期 6.4%と上昇したが、Ⅱ期▲0.5%と減少し、Ⅲ期 6.8%、Ⅳ期 4.7%と2期連続で上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期 9.5%、Ⅱ期 3.7%、Ⅲ期 9.7%、Ⅳ期 16.9%と4期連続で前年を上回った（図19、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期と令和元年Ⅳ期以降4期連続で上昇し、Ⅳ期は低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期は令和元年Ⅱ期以降4年連続前年を下回ったが、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期は3期連続で前年を上回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

(6) 輸送機械工業

①概況

生産指数は前年比▲25.6%（寄与度▲1.17）で83.0となり、3年連続で低下した。これは2品目すべてが減少したことによる（表6、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲6.0%（寄与度▲0.11）で81.2となり、2年連続で低下した。これは1品目（自動車部品）が減少したことによる（表6、統計表第9表）。

表6 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>輸送機械工業</b>	<b>410.9</b>	111.6	83.0	▲25.6	▲1.17	<b>225.6</b>	86.4	81.2	▲6.0	▲0.11
自動車ボデー	99.4	X	X	X	X	-	-	-	-	-
自動車部品	311.5	X	X	X	X	225.6	86.4	81.2	▲6.0	▲0.11

寄与度は鉱工業に対する数値

図21 輸送機械工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

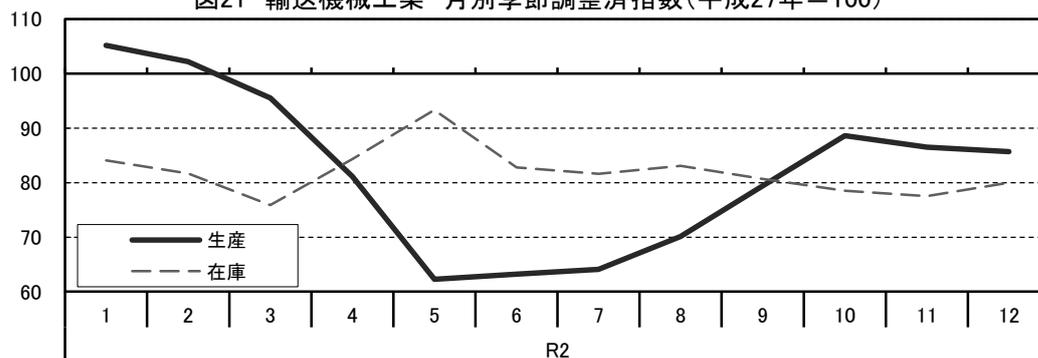
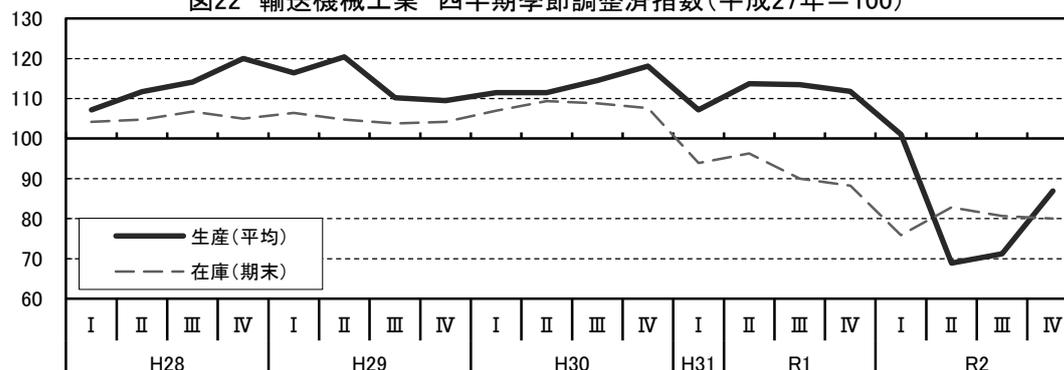


図22 輸送機械工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲9.7%、Ⅱ期▲31.8%と令和元年Ⅲ期以降4期連続で低下したが、Ⅲ期3.3%、Ⅳ期22.1%と2期連続で上昇した。

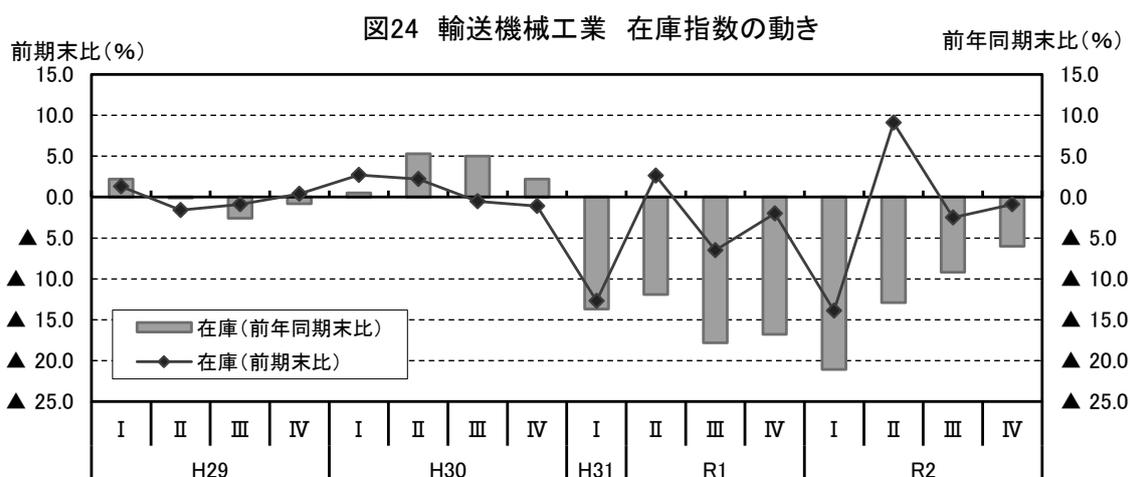
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲2.6%、Ⅱ期▲42.0%、Ⅲ期▲38.9%、Ⅳ期▲18.8%と令和元年Ⅳ期以降5期連続で前年を下回った（図23、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲13.9%と令和元年Ⅲ期以降3期連続で低下したが、Ⅱ期9.1%と上昇し、Ⅲ期▲2.5%、Ⅳ期▲0.9%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲21.1%、Ⅱ期▲12.9%、Ⅲ期▲9.2%、Ⅳ期▲6.0%と平成31年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った（図24、統計表第4表）。



## (7) 窯業・土石製品工業

### ①概況

生産指数は前年比▲15.5%（寄与度▲0.31）で67.5となり、2年連続で低下した。これは6品目中、1品目（セメント製品）が増加したものの、5品目（ガラス製品、生コンクリート、その他窯業・土石製品など）が減少したことによる（表7、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比0.0%（寄与度0.00）で69.7となり、横ばいとなった。これは5品目中、2品目（セメント製品など）が増加したものの、3品目（ガラス製品、その他窯業・土石製品など）が減少したことによる（表7、統計表第9表）。

表7 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>窯業・土石製品工業</b>	<b>252.9</b>	79.9	67.5	▲15.5	▲0.31	<b>379.7</b>	69.7	69.7	0.0	0.00
ガラス製品	61.7	85.7	73.9	▲13.8	▲0.07	27.3	85.6	60.9	▲28.9	▲0.06
生コンクリート	79.4	83.1	77.2	▲7.1	▲0.05	-	-	-	-	-
セメント製品	23.7	87.4	96.9	10.9	0.02	156.3	63.2	79.7	26.1	0.24
炭素製品	52.7	X	X	X	X	113.8	X	X	X	X
ファインセラミックス	2.2	X	X	X	X	9.2	X	X	X	X
その他窯業・土石製品	33.2	91.0	74.3	▲18.4	▲0.06	73.1	103.3	91.1	▲11.8	▲0.08

寄与度は鉱工業に対する数値

図25 窯業・土石製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

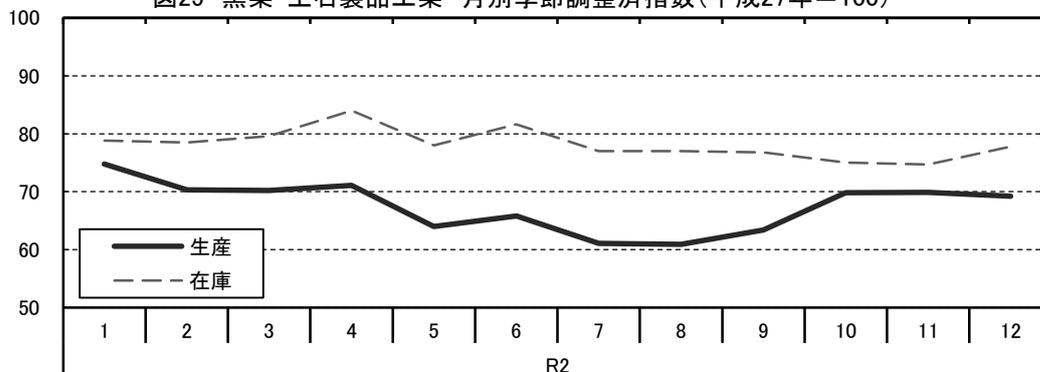
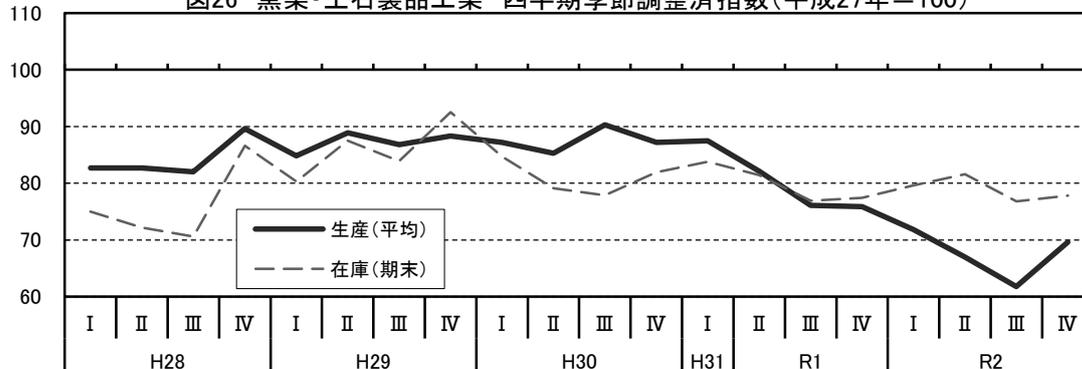


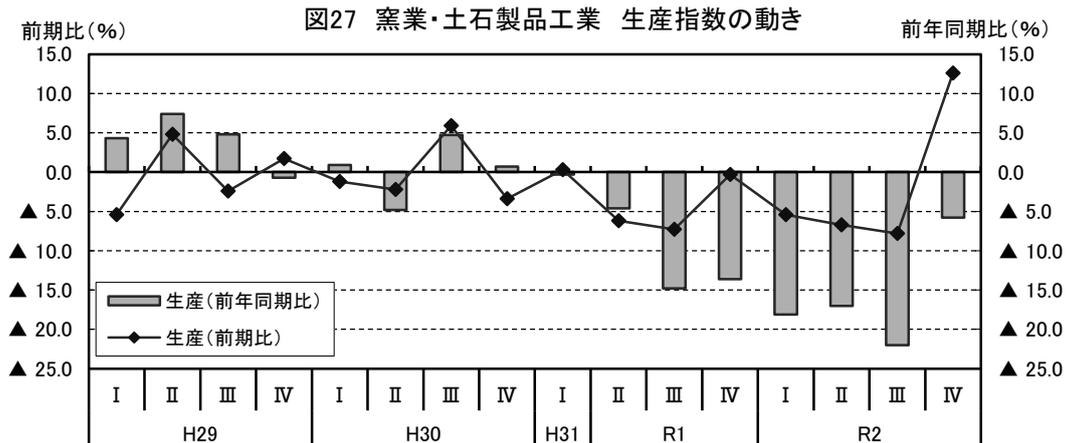
図26 窯業・土石製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲5.4%、Ⅱ期▲6.7%、Ⅲ期▲7.8%と令和元年Ⅱ期以降6期連続で低下したが、Ⅳ期12.6%と上昇した。

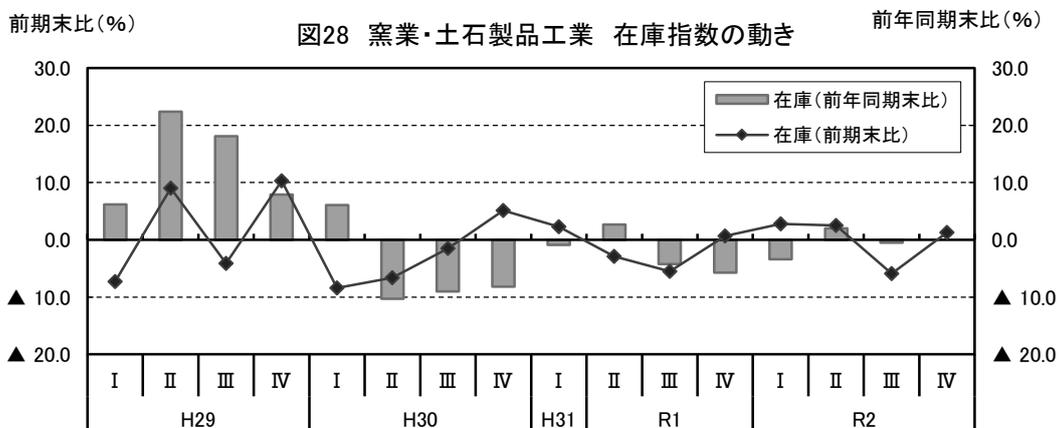
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲18.1%、Ⅱ期▲17.0%、Ⅲ期▲22.0%、Ⅳ期▲5.8%と平成31年Ⅰ期以降8期連続で前年を下回った（図27、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期2.8%、Ⅱ期2.5%と令和元年Ⅳ期に続き3期連続で上昇したが、Ⅲ期▲5.9%と低下し、Ⅳ期1.3%と再び上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲3.4%と令和元年Ⅲ期以降3期連続で前年を下回ったが、Ⅱ期2.0%と前年を上回り、Ⅲ期▲0.5%と再び前年を下回り、Ⅳ期0.0%と横ばいとなった（図28、統計表第4表）。



(8) 化学工業

①概況

生産指数は前年比0.4%（寄与度0.11）の上昇で109.2となり、3年連続で上昇した。これは8品目中、6品目（化学肥料、無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品など）が減少したものの、2品目（医薬品原末・原液、医薬品）が増加したことによる（表8、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲9.1%（寄与度▲2.60）で86.6となり、3年ぶりに低下した。これは8品目中、3品目（化学肥料、医薬品など）が増加したものの、5品目（無機化学製品、プラスチック樹脂、その他化学製品、医薬品原末・原液など）が減少したことによる（表8、統計表第9表）。

表8 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
		平成27年=100								
<b>化学工業</b>	<b>2734.0</b>	108.8	109.2	0.4	0.11	<b>3225.2</b>	95.3	86.6	▲ 9.1	▲ 2.60
化学肥料	179.3	99.6	83.6	▲ 16.1	▲ 0.29	349.7	99.1	104.8	5.8	0.18
ソーダ工業品	4.3	X	X	X	X	2.6	X	X	X	X
無機化学製品	31.0	121.8	111.3	▲ 8.6	▲ 0.03	84.6	107.4	107.3	▲ 0.1	▲ 0.00
プラスチック樹脂	33.4	97.4	96.6	▲ 0.8	▲ 0.00	127.1	86.9	74.5	▲ 14.3	▲ 0.15
その他化学製品	125.9	99.6	91.7	▲ 7.9	▲ 0.10	752.5	117.1	66.0	▲ 43.6	▲ 3.56
接着剤	16.4	X	X	X	X	107.5	X	X	X	X
医薬品原末・原液	232.8	127.0	127.4	0.3	0.01	483.2	78.5	72.4	▲ 7.8	▲ 0.27
医薬品	2110.9	108.3	110.9	2.4	0.55	1318.0	89.0	99.3	11.6	1.26

寄与度は鉱工業に対する数値

図29 化学工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

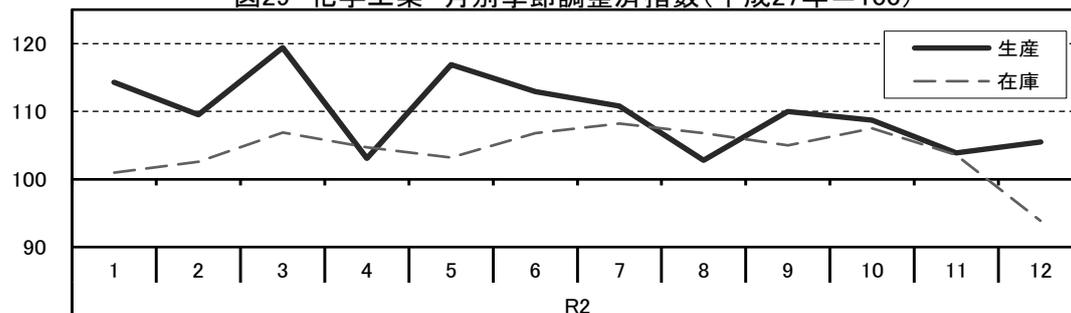
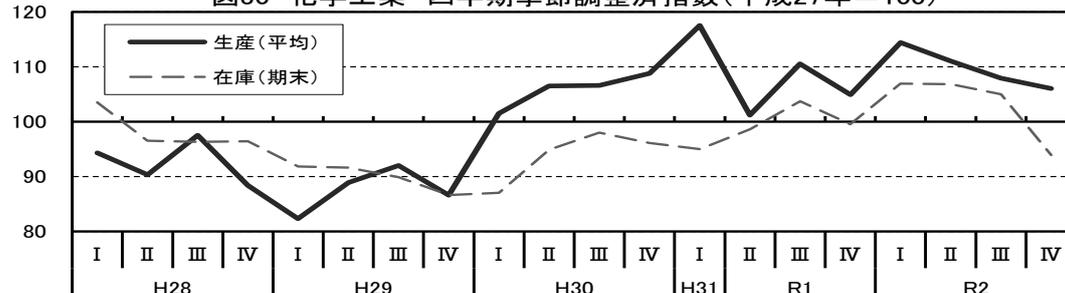


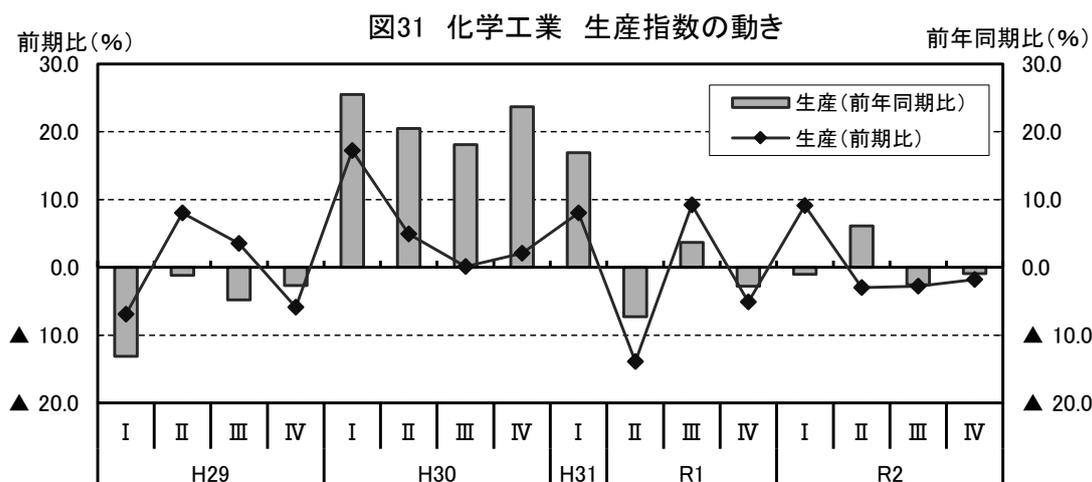
図30 化学工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生 産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期9.1%と上昇したが、II期▲3.0%、III期▲2.8%、IV期▲1.8%と3期連続で低下した。

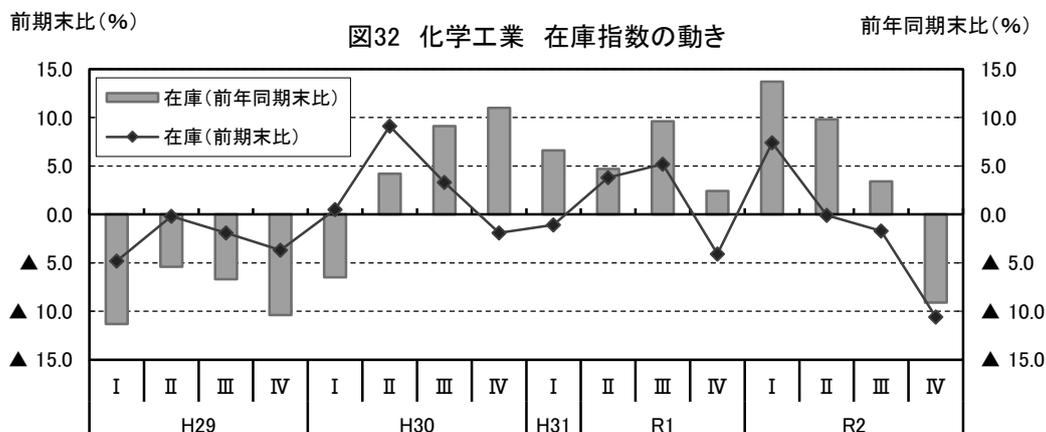
また、前年同期比(原指数)は、I期▲1.0%と令和元年IV期以降2期連続で前年を下回り、II期6.1%と前年を上回ったが、III期▲2.6%、IV期▲0.9%と再び前年を下回った(図31、統計表第3表)。



## ③在 庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期7.4%と上昇したが、II期▲0.1%、III期▲1.7%、IV期▲10.6%と3期連続で低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、I期13.7%、II期9.8%、III期3.4%と平成30年II期以降10期連続で前年を上回ったが、IV期▲9.1%と前年を下回った(図32、統計表第4表)。



## (9) プラスチック製品工業

### ①概況

生産指数は前年比▲8.6%（寄与度▲0.42）で90.5となり、2年連続で低下した。これは6品目すべてが減少したことによる（表9、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲7.5%（寄与度▲0.59）で127.7となり、4年ぶりに低下した。これは6品目中、1品目（日用品雑貨）が増加したものの、5品目（フィルム・シート、容器、その他プラスチック製品など）が減少したことによる（表9、統計表第9表）。

表9 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
		平成27年=100								
<b>プラスチック製品工業</b>	<b>497.4</b>	99.0	90.5	▲ 8.6	▲ 0.42	<b>621.8</b>	138.0	127.7	▲ 7.5	▲ 0.59
フィルム・シート	211.6	83.5	78.5	▲ 6.0	▲ 0.11	130.4	95.9	76.9	▲ 19.8	▲ 0.23
機械器具部品	83.8	102.2	90.7	▲ 11.3	▲ 0.10	5.1	X	X	X	X
容器	43.4	104.6	100.8	▲ 3.6	▲ 0.02	37.8	135.1	112.8	▲ 16.5	▲ 0.08
日用品雑貨	59.2	105.3	102.9	▲ 2.3	▲ 0.01	174.2	105.6	106.8	1.1	0.02
建材・強化製品	29.1	119.5	97.8	▲ 18.2	▲ 0.06	4.6	X	X	X	X
その他プラスチック製品	70.3	124.8	106.9	▲ 14.3	▲ 0.13	269.7	179.6	168.4	▲ 6.2	▲ 0.28

寄与度は鉱工業に対する数値

図33 プラスチック製品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

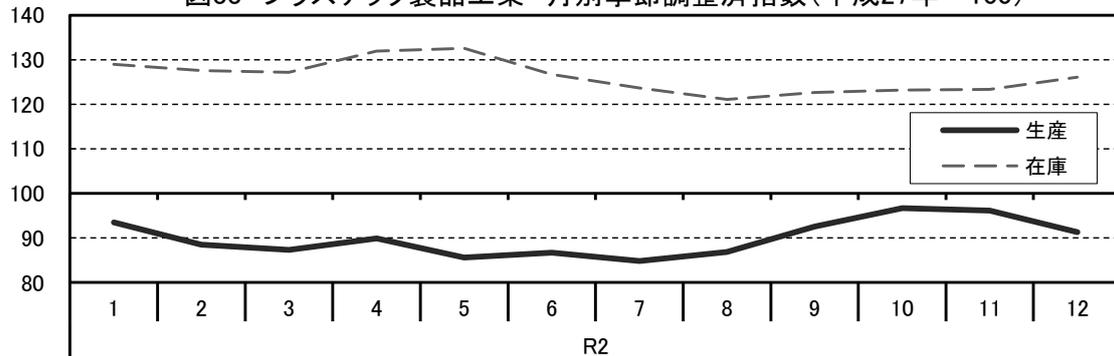
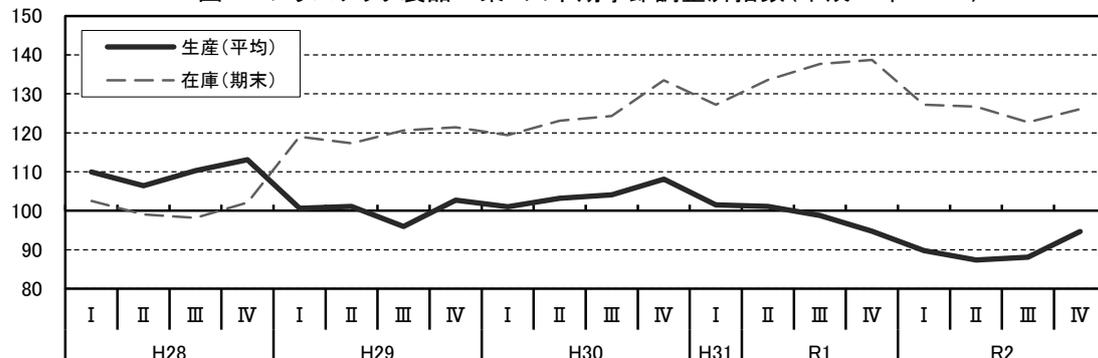


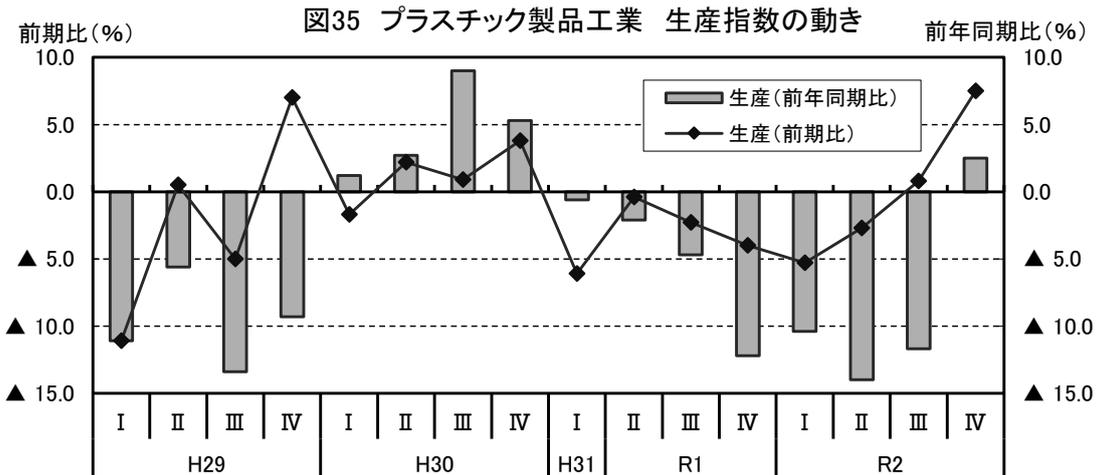
図34 プラスチック製品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生 産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲5.3%、Ⅱ期▲2.7%と平成31年Ⅰ期以降6期連続で低下したが、Ⅲ期0.8%、Ⅳ期7.5%と上昇した。

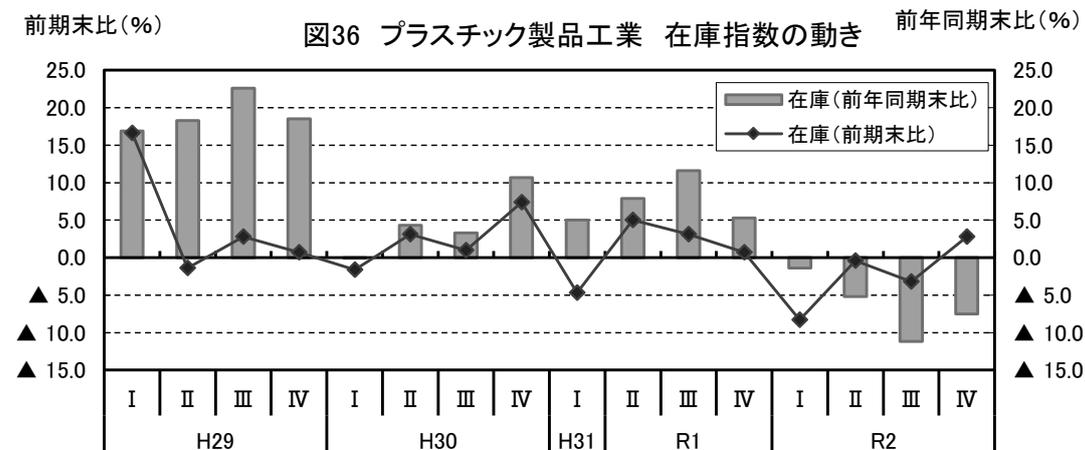
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲10.4%、Ⅱ期▲14.0%、Ⅲ期▲11.7%と平成31年Ⅰ期以降7期連続で前年を下回ったが、Ⅳ期2.5%と前年を上回った（図35、統計表第3表）。



## ③在 庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲8.3%、Ⅱ期▲0.4%、Ⅲ期▲3.2%と3期連続で低下したが、Ⅳ期2.8%と上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲1.4%、Ⅱ期▲5.2%、Ⅲ期▲11.2%、Ⅳ期▲7.5%と4期連続で前年を下回った。（図36、統計表第4表）。



(10) パルプ・紙・紙加工品工業

①概況

生産指数は前年比▲18.6%（寄与度▲0.72）で78.3となり、2年ぶりに低下した。これは6品目すべてが減少したことによる（表10、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲28.7%（寄与度▲1.32）で59.3となり、2年ぶりに低下した。これは5品目すべてが減少したことによる（表10、統計表第9表）。

表10 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>パルプ・紙・紙加工品工業</b>	<b>401.9</b>	96.2	78.3	▲18.6	▲0.72	<b>597.5</b>	83.2	59.3	▲28.7	▲1.32
パルプ	88.7	X	X	X	X	-	-	-	-	-
紙	131.7	X	X	X	X	221.3	X	X	X	X
紙器	6.8	X	X	X	X	45.0	X	X	X	X
板紙	53.3	76.9	64.8	▲15.7	▲0.06	114.0	62.6	59.3	▲5.3	▲0.03
段ボール・箱・袋	77.4	101.7	98.2	▲3.4	▲0.03	15.5	102.6	96.6	▲5.8	▲0.01
その他紙製品	44.0	X	X	X	X	201.7	X	X	X	X

平成27年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図37 パルプ・紙・紙加工品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

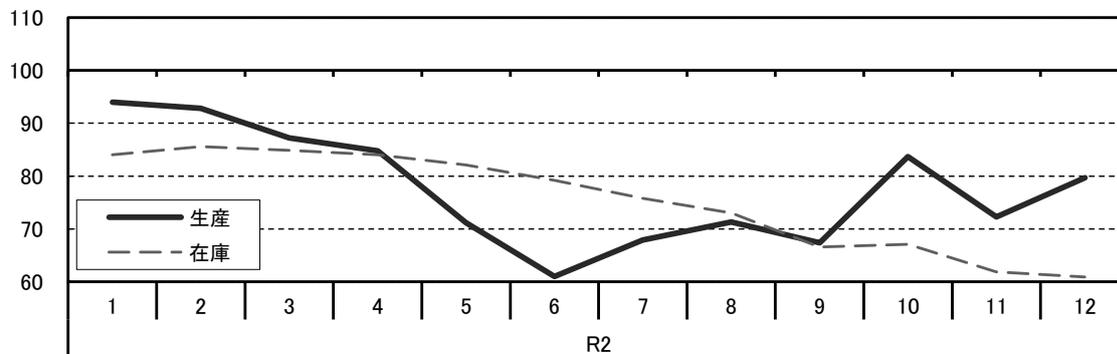
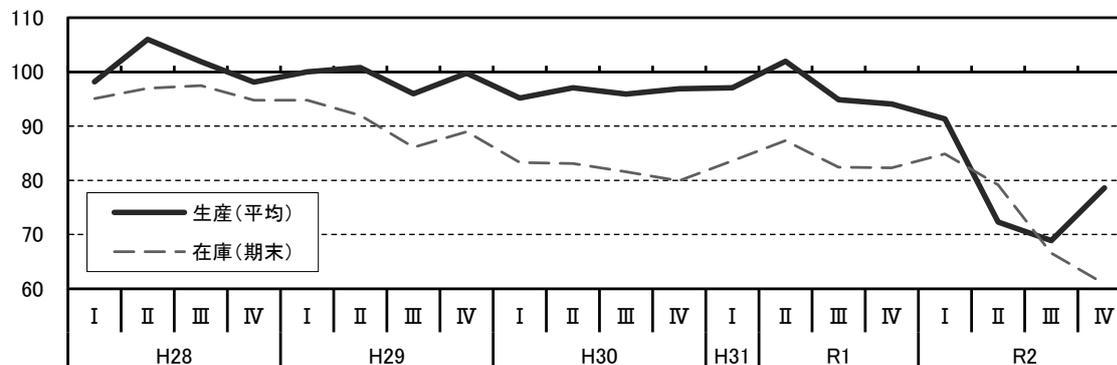


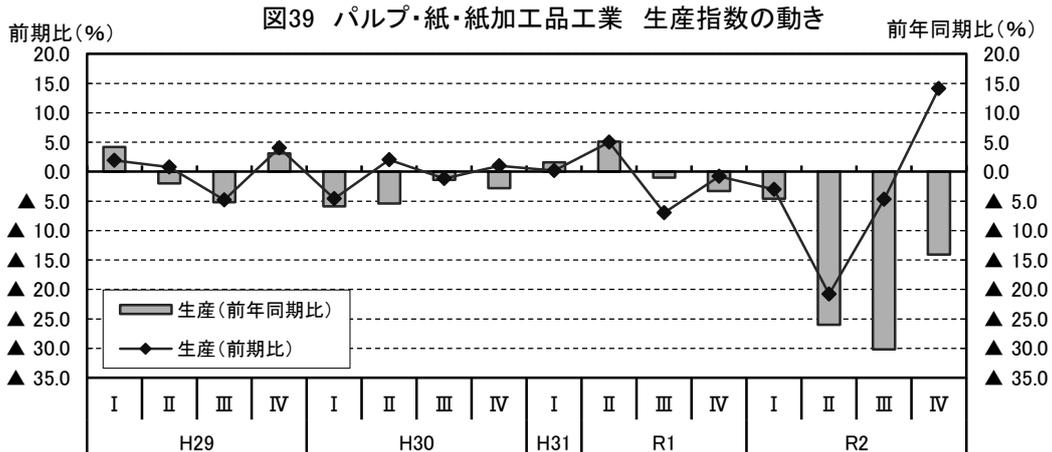
図38 パルプ・紙・紙加工品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ② 生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲3.0%、Ⅱ期▲20.8%、Ⅲ期▲4.7%と令和元年Ⅲ期以降5期連続で低下したが、Ⅳ期14.1%と上昇した。

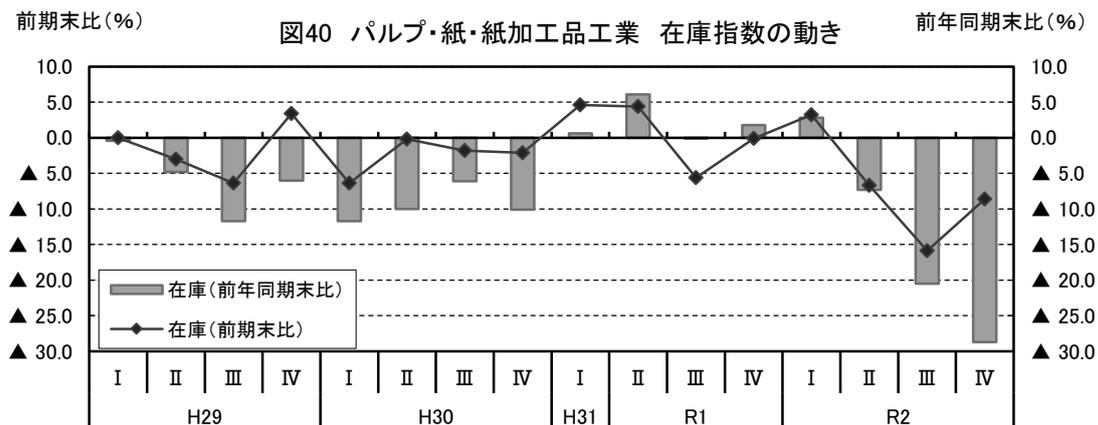
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲4.6%、Ⅱ期▲26.0%、Ⅲ期▲30.2%、Ⅳ期▲14.1%と令和元年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図39、統計表第3表）。



## ③ 在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期3.2%と上昇したが、Ⅱ期▲6.7%、Ⅲ期▲15.9%、Ⅳ期▲8.6%と3期連続で低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期2.8%と前年を上回ったが、Ⅱ期▲7.3%、Ⅲ期▲20.5%、Ⅳ期▲28.7%と3期連続で前年を下回った（図40、統計表第4表）。



## (11) 繊維工業

### ①概況

生産指数は前年比▲11.4%（寄与度▲0.19）で77.8となり、3年連続で低下した。これは5品目中、1品目（化繊・紡績）が増加したものの、4品目（織物、染色整理、衣類、その他繊維製品）が減少したことによる（表11、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲9.6%（寄与度▲0.25）で98.5となり、3年ぶりに低下した。これは5品目中、1品目（織物）が増加したものの、4品目（化繊・紡績、染色整理、衣類、その他繊維製品）が減少したことによる（表11、統計表第9表）。

表11 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>繊維工業</b>	<b>193.5</b>	87.8	77.8	▲11.4	▲0.19	<b>258.1</b>	109.0	98.5	▲9.6	▲0.25
化繊・紡績	41.1	63.2	67.3	6.5	0.02	38.0	101.3	88.3	▲12.8	▲0.05
織物	31.5	103.7	92.9	▲10.4	▲0.03	76.6	87.4	102.8	17.6	0.11
染色整理	27.8	124.0	108.4	▲12.6	▲0.04	38.5	108.1	100.9	▲6.7	▲0.03
衣類	72.2	77.5	63.7	▲17.8	▲0.10	87.2	126.1	90.7	▲28.1	▲0.29
その他繊維製品	20.9	99.3	83.9	▲15.5	▲0.03	17.8	136.6	134.1	▲1.8	▲0.00

寄与度は鉱工業に対する数値

図41 繊維工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

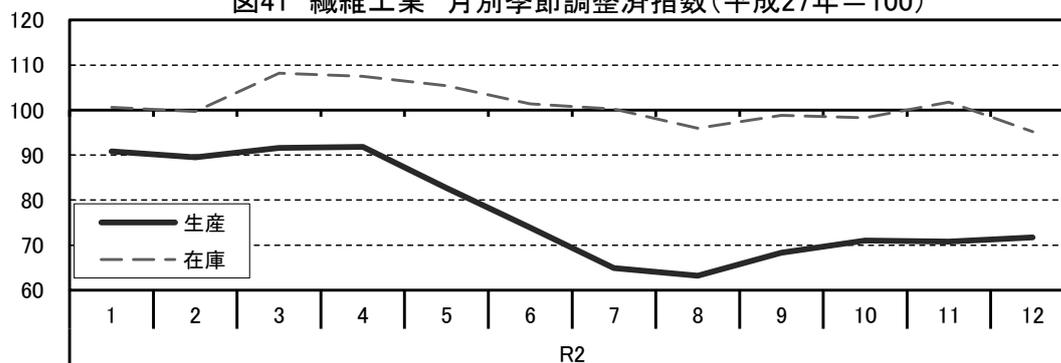
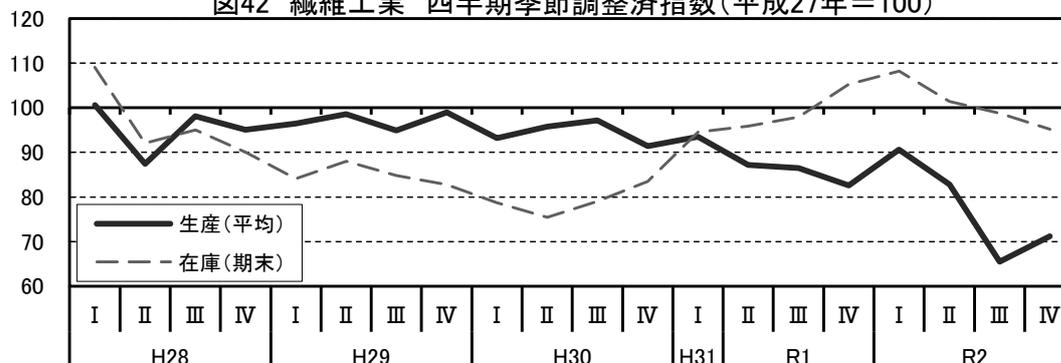


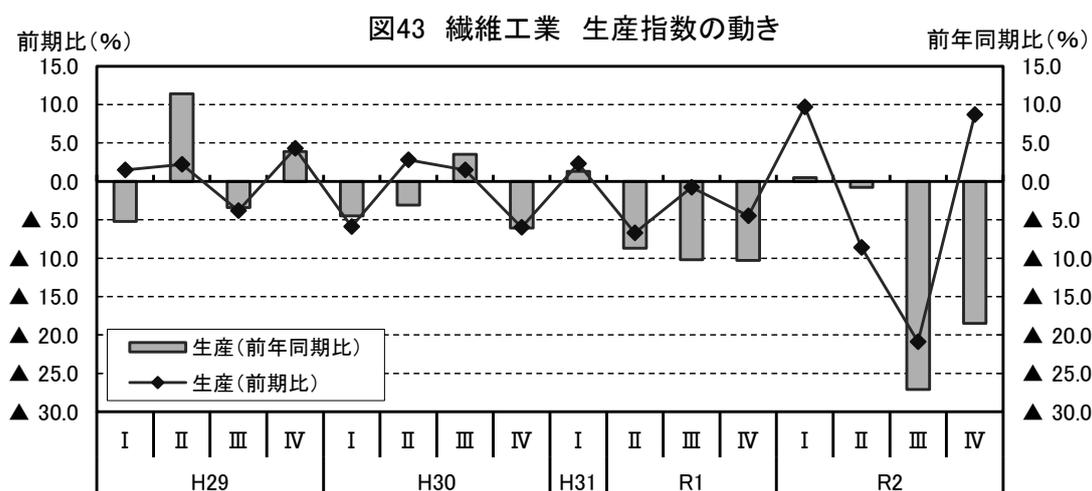
図42 繊維工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比(季節調整済指数)は、I期9.7%と上昇したが、II期▲8.6%、III期▲20.9%と2期連続で低下し、IV期8.7%と再び上昇した。

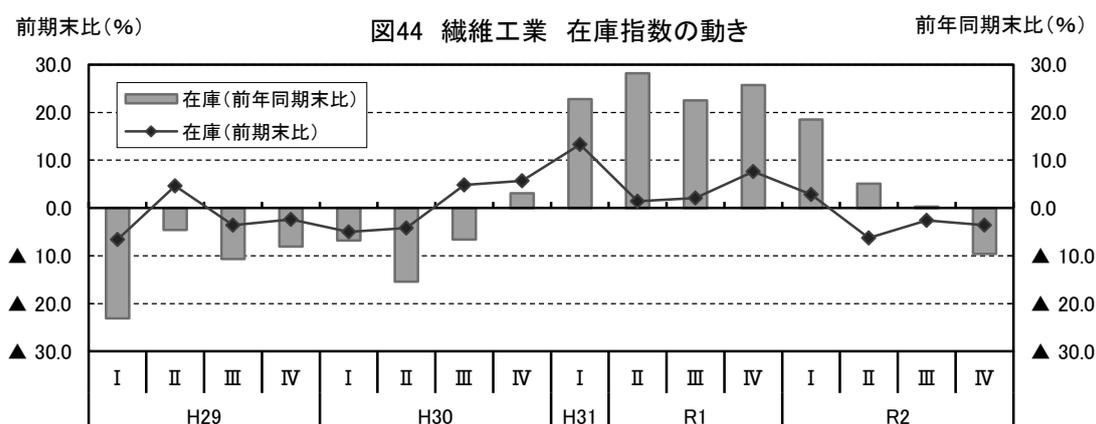
また、前年同期比(原指数)は、I期0.5%と前年を上回ったが、II期▲0.8%、III期▲27.1%、IV期▲18.5%と3期連続で前年を下回った(図43、統計表第3表)。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比(季節調整済指数)は、I期2.8%と平成30年III期以降7期連続で上昇したが、II期▲6.3%、III期▲2.6%、IV期▲3.6%と3期連続で低下した。

また、前年同期末比(原指数)は、I期18.5%、II期5.1%、III期0.3%と平成30年IV期以降8期連続で前年を上回ったが、IV期▲9.6%と前年を下回った。(図44、統計表第4表)。



(12) 食料品工業

①概況

生産指数は前年比▲13.2%（寄与度▲0.62）で77.5となり、6年連続で低下した。これは7品目すべてが減少したことによる（表12、統計表第7表）。

在庫指数は前年末比▲0.8%（寄与度▲0.04）で82.0となり、3年連続で低下した。これは7品目中、2品目（飲料など）が増加したものの、5品目（調味料、精穀・製粉、その他の食料品など）が減少したことによる（表12、統計表第9表）。

表12 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>食料品工業</b>	<b>531.7</b>	89.3	77.5	▲13.2	▲0.62	<b>603.8</b>	82.7	82.0	▲0.8	▲0.04
畜産食料品	120.0	78.0	73.1	▲6.3	▲0.06	86.5	80.0	X	X	X
水産食料品	23.5	X	X	X	X	30.4	X	X	X	X
調味料	23.0	87.8	84.8	▲3.4	▲0.01	84.4	73.6	62.3	▲15.4	▲0.09
精穀・製粉	1.3	X	X	X	X	2.9	99.6	92.0	▲7.6	▲0.00
パン・菓子	42.9	X	X	X	X	9.1	X	X	X	X
その他の食料品	215.9	99.0	83.0	▲16.2	▲0.34	94.3	113.0	95.3	▲15.7	▲0.15
飲料	105.1	87.1	77.7	▲10.8	▲0.10	296.2	82.7	91.5	10.6	0.24

平成27年=100

寄与度は鉱工業に対する数値

図45 食料品工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

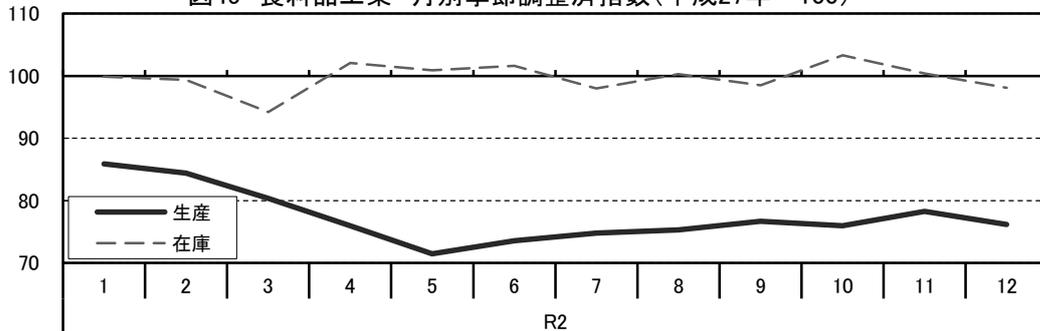
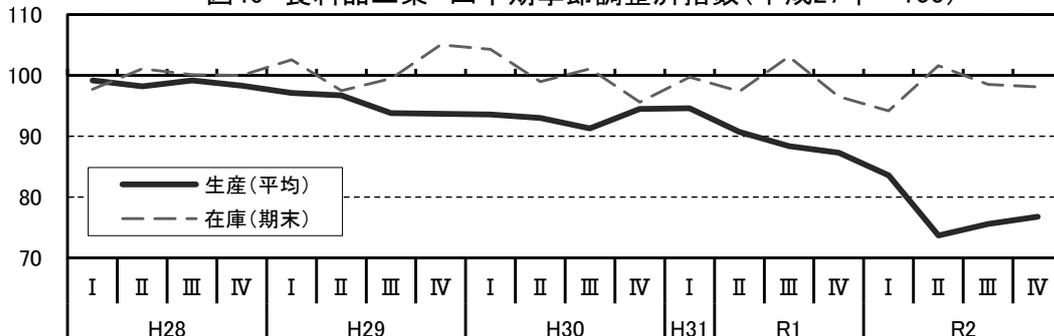


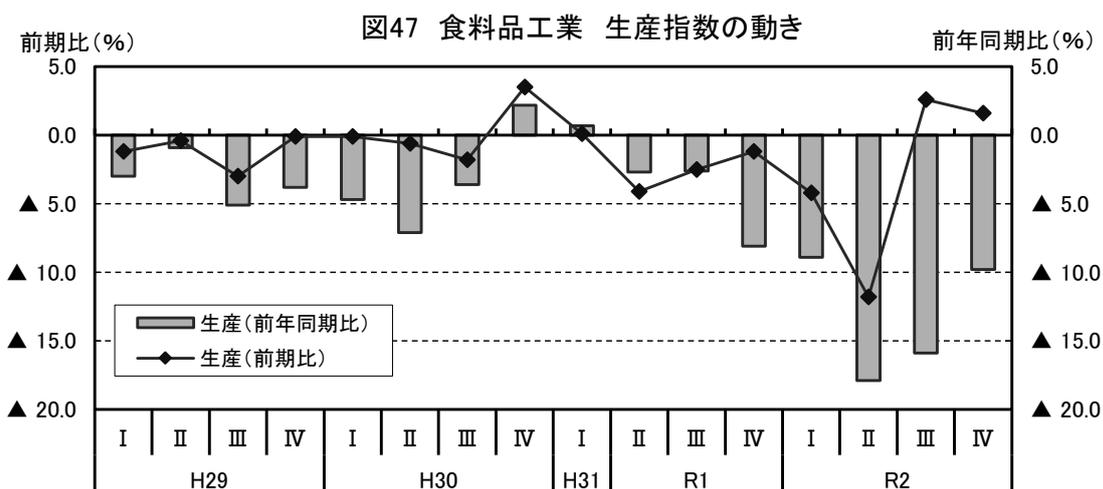
図46 食料品工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲4.2%、Ⅱ期▲11.8%と令和元年Ⅱ期以降5期連続で低下したが、Ⅲ期2.6%、Ⅳ期1.6%と2期連続で上昇した。

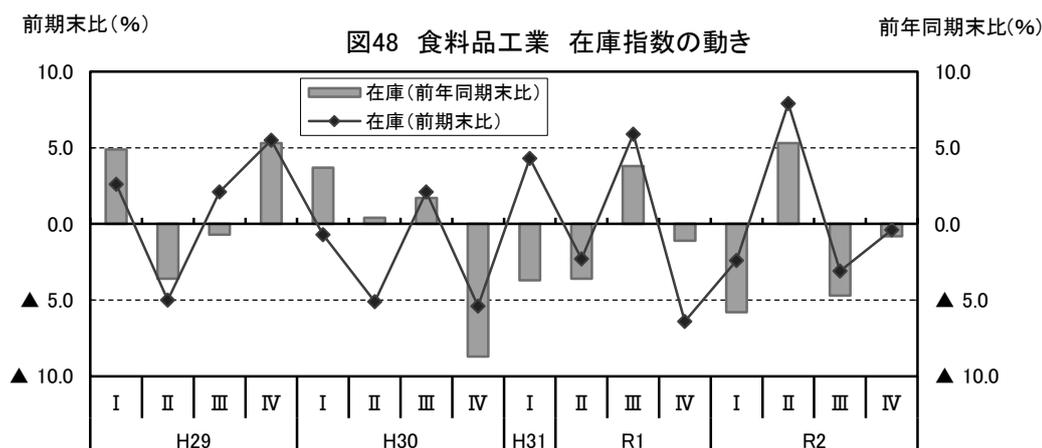
また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲8.9%、Ⅱ期▲17.9%、Ⅲ期▲15.9%、Ⅳ期▲9.8%と令和元年Ⅱ期以降7期連続で前年を下回った（図47、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲2.4%と低下し、Ⅱ期7.9%と上昇したが、Ⅲ期▲3.1%、Ⅳ期▲0.4%と再び低下した。

また、前年同期末比（原指数）は、Ⅰ期▲5.8%と前年を下回ったが、Ⅱ期5.3%と前年を上回り、Ⅲ期▲4.7%、Ⅳ期▲0.8%と再び前年を下回った（図48、統計表第4表）。



(13) その他工業

①概況

生産指数は前年比▲18.8%（寄与度▲0.93）で74.5となり、5年連続で低下した。これは4品目すべてが減少したことによる（表13、統計表第7表）。

表13 品目別生産指数(年平均)・在庫指数(年末)

平成27年=100

	ウェイト (万分比)	生産指数(原指数)		前年比(%)	寄与度 (%ポイント)	ウェイト (万分比)	在庫指数(原指数)		前年末比 (%)	寄与度 (%ポイント)
		令和元年	令和2年				令和元年	令和2年		
<b>その他工業</b>	<b>544.0</b>	91.7	74.5	▲18.8	▲0.93	<b>271.6</b>	X	X	X	X
ゴム製品工業	44.7	X	X	X	X	27.5	X	X	X	X
印刷業	104.4	88.5	84.1	▲5.0	▲0.05	28.8	X	X	X	X
木材・木製品工業	107.2	100.8	98.8	▲2.0	▲0.02	-	-	-	-	-
その他製品工業	287.7	X	X	X	X	215.3	X	X	X	X

寄与度は鉱工業に対する数値

図49 その他工業 月別季節調整済指数(平成27年=100)

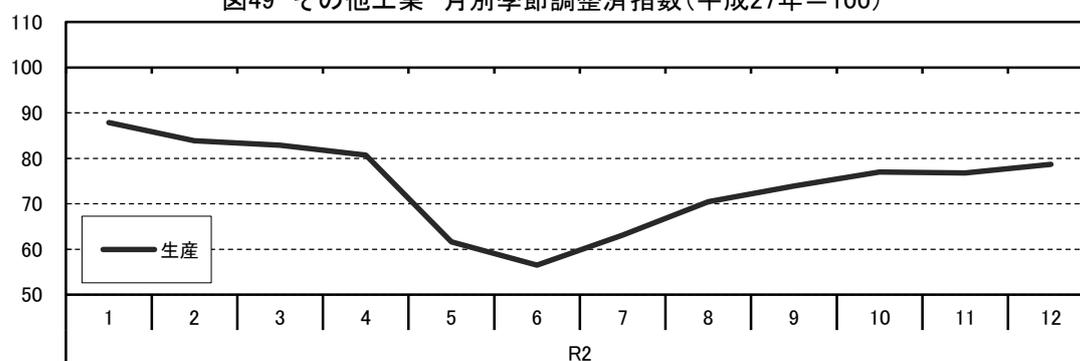
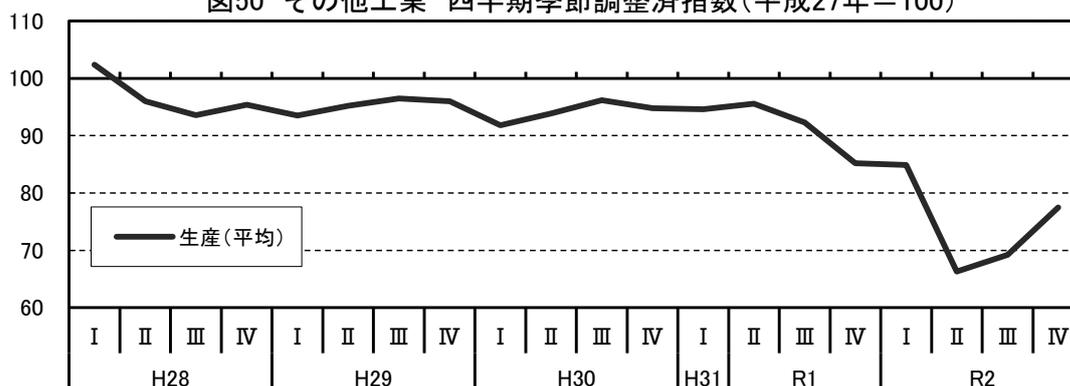


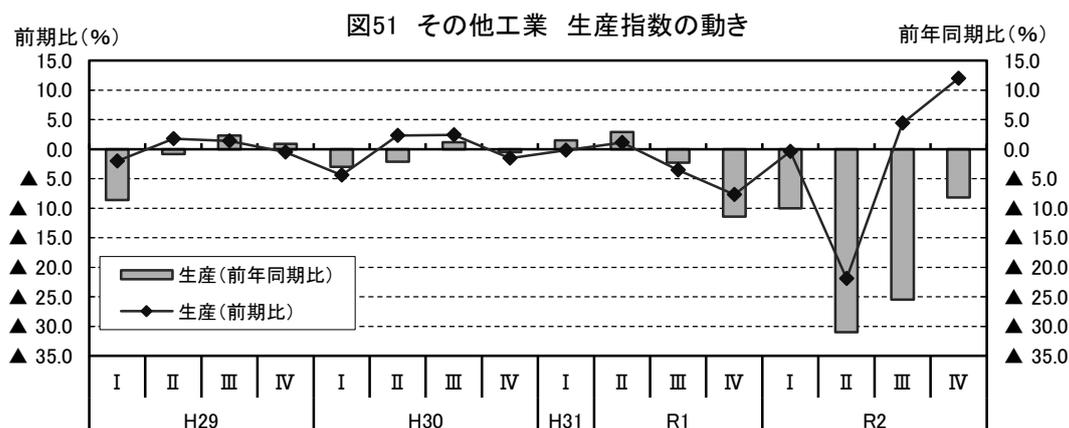
図50 その他工業 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



## ②生産

四半期別生産指数の前期比（季節調整済指数）は、Ⅰ期▲0.4%、Ⅱ期▲21.9%と令和元年Ⅲ期以降4期連続で低下したが、Ⅲ期4.4%、Ⅳ期12.0%と上昇した。

また、前年同期比（原指数）は、Ⅰ期▲10.0%、Ⅱ期▲31.0%、Ⅲ期▲25.5%、Ⅳ期▲8.2%と令和元年Ⅲ期以降6期連続で前年を下回った（図51、統計表第3表）。



## ③在庫

四半期別在庫指数の前期末比（季節調整済指数）は、Ⅰ期、Ⅱ期は低下し、Ⅲ期、Ⅳ期は上昇した。

また、前年同期末比（原指数）は、4期連続で前年を下回った。

※指数値は秘匿のため公表しません。

### 3 財用途別動向

注：財用途別分類及び定義については P3「②特殊分類(財別)」を、品目については P15～16「業種別・財別品目一覧」を参照。

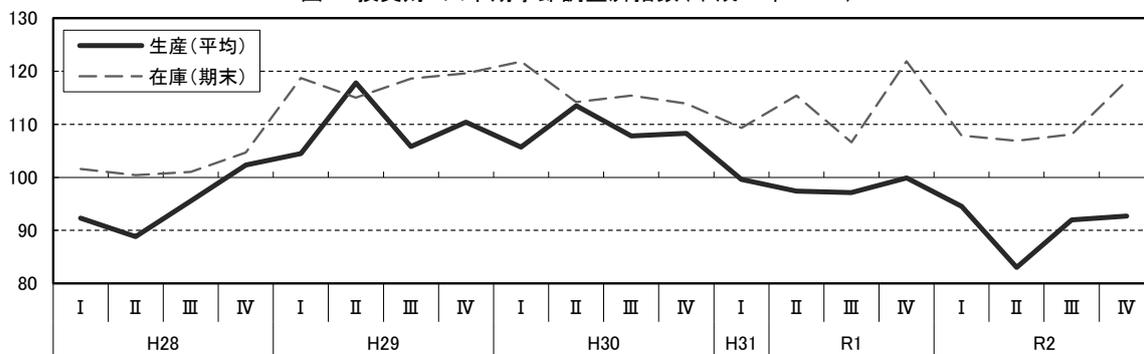
#### (1) 最終需要財

生産は前年比（原指数）▲4.2%で 96.7 となり、在庫は前年末比 0.2%の上昇で 95.2 となった（統計表第 11 表・第 13 表）。

##### ①投資財

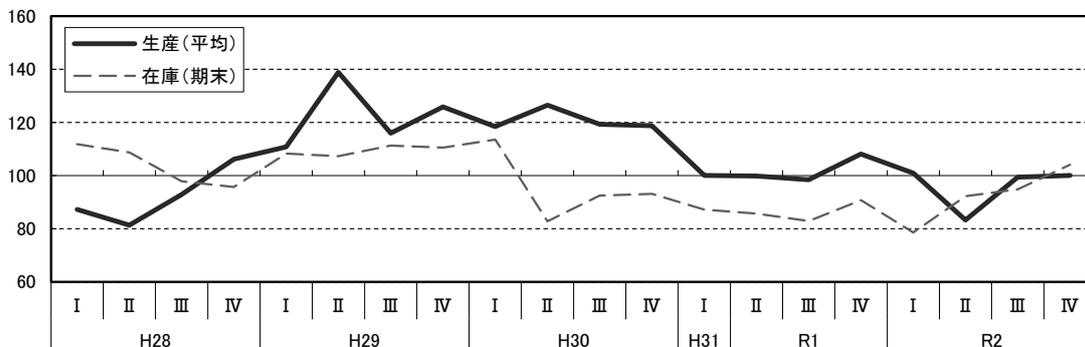
投資財全体では、生産が前年比（原指数）▲7.8%で 90.4 となり、在庫が前年末比 0.5%の上昇で 118.9 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期▲5.4%、II 期▲12.2%と 2 期連続で低下したが、III 期 10.8%、IV 期 0.8%と上昇した（図 1、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。

図1 投資財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

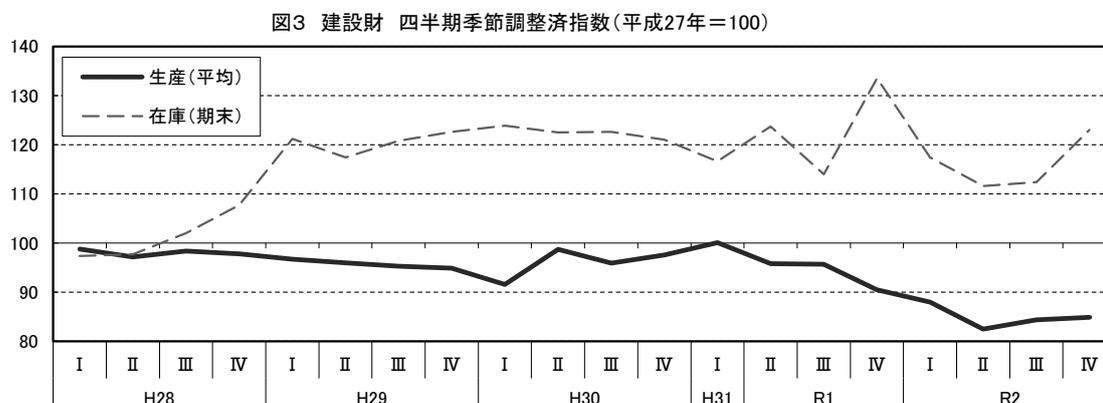


投資財のうち**資本財**は、生産が前年比（原指数）▲5.4%で 95.7 となり、在庫が前年末比 19.6%の上昇で 114.7 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I 期▲6.7%、II 期▲17.4%と 2 期連続で低下したが、III 期 19.3%、IV 期 0.6%と上昇した（図 2、統計表第 2 表・第 5 表・第 6 表）。

図2 資本財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

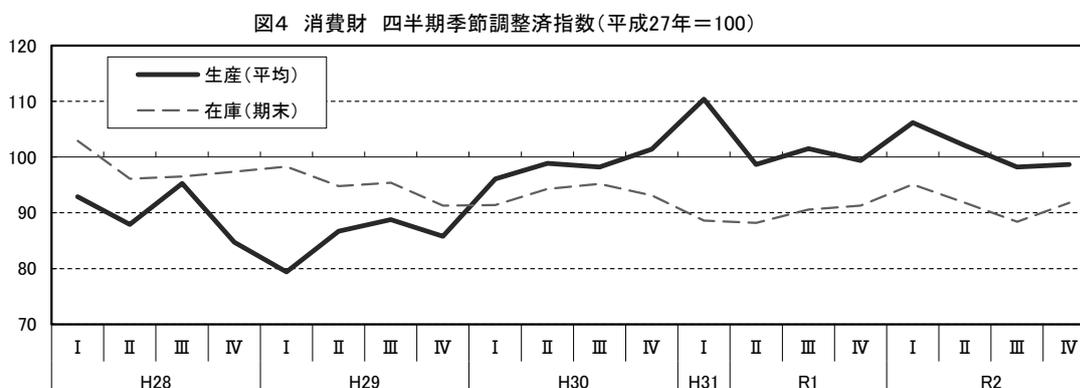


また、**建設財**は、生産が前年比（原指数）▲10.6%で 84.8 となり、在庫が前年末比▲4.1%で 120.2 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期▲2.8%、II期▲6.3%と令和元年II期以降5期連続で低下したが、III期 2.3%、IV期 0.6%と2期連続で上昇した（図3、統計表第2表・第5表・第6表）。



## ②消費財

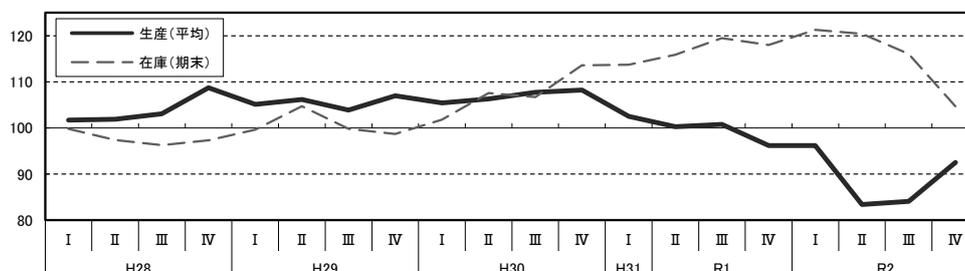
消費財全体では、生産が前年比（原指数）▲1.9%で 100.7 となり、在庫が前年末比 0.2%の上昇で 88.0 となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期 6.8%と上昇したが、II期▲3.9%、III期▲3.8%と低下し、IV期 0.5%と再び上昇した（図4、統計表第2表・第5表・第6表）。



## (2) 生産財

生産財全体では、生産が前年比（原指数）▲10.6%で89.4となり、在庫が前年末比▲13.0%で99.4となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期0.0%で横ばいとなり、II期▲13.3%と低下し、III期0.8%、IV期10.0%と2期連続で上昇した（図5、統計表第2表・第5表・第6表）。

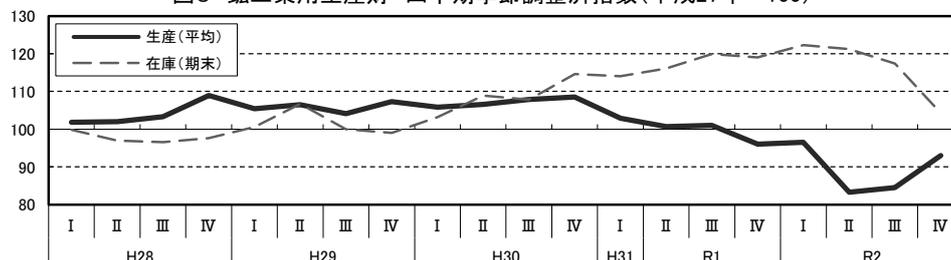
図5 生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



### ① 鉱工業用生産財

生産財のうち**鉱工業用生産財**は、生産が前年比（原指数）▲10.6%で89.6となり、在庫が前年末比▲13.7%で99.1となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期0.5%と上昇したが、II期▲13.7%と低下し、III期1.4%、IV期10.1%と再び上昇した（図6、統計表第2表・第5表・第6表）。

図6 鉱工業用生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)



### ② その他用生産財

また、**その他用生産財**は、生産が前年比（原指数）▲11.6%で84.2となり、在庫が前年末比2.5%の上昇で106.0となった。また、生産を前期比（季節調整済指数）で見ると、I期0.3%と上昇したが、II期▲10.9%、III期▲5.4%と低下し、IV期5.0%と再び上昇した（図7、統計表第2表・第5表・第6表）。

図7 その他用生産財 四半期季節調整済指数(平成27年=100)

